

生き生き津高

Vol.18



体育祭 団対抗リレー

三重県立津高等学校 2017. 3

より親しまれる『生き生き津高』にむけて

三重県立津高等学校長

中川 弘文

「生き生き津高」は、本校の学校行事や生徒会活動、部活動等、本校生徒の一年の活動記録をまとめたものです。本資料はこれまで紙の冊子の形態で関係者に配布され、津高生にとっては自分たちの「いま」を映し出した記録集であるとともに、中学生のみなさんには親しみやすい学校案内としての役割を果たしてきました。今年度は新たな改訂を行い、さらに多くの人により新しい情報を手軽に伝えるために、本校公式ホームページを通して閲覧可能な電子ファイルとさせていただきました。

津高校の歴史は 137 年にも及び、江戸時代の津藩の藩校、有造館にさかのぼります。藩校は幕末・明治時代に将来の文化や学問の振興を担う若者を育む教育機関として、全国各地で特色ある活動を展開しました。有造館は文化 3 年（1820 年）に創設されましたが、その教育方針の特色は学則の中に、「文に偏らずして必ず文武を合す。」と記されています。学問のみに偏らず、「文武両道」の精神が尊重されていました。

現在の津高校は、『自主・自律』の校訓のもと、高い知性と教養を持ったリーダーが育つ学校」を目指し、教育活動を展開しています。生徒は日常の学習や生活面において、常に当たり前のことを当たり前にこなす「凡事徹底」の実践を心掛け、高校生活を謳歌しています。これから本資料のページを繰って、生徒たちの活躍をご覧ください。何事にもメリハリをつけ、頑張りぬく、「文武両道」「自主・自律」の伝統が着実に受け継がれていることをお確かめいただければ幸いです。

もくじ

1. 学校行事や委員会活動紹介

| | |
|------------------|----|
| スクールライフ | 3 |
| 生徒会活動・生徒会行事 | 5 |
| 修学旅行 | 7 |
| 東京大学キャンパスツアー | 8 |
| マレーシア研修 | 10 |
| SSH | 12 |
| 人権委員会 | 14 |
| キャリアプロジェクト「西村ゼミ」 | 16 |

2. 部活動紹介

| | |
|---------------------|----|
| ボート部 | 18 |
| 書道部 | 19 |
| 新聞・写真部 | 23 |
| 音楽部 | 25 |
| 陸上競技部 | 28 |
| 卓球部 | 30 |
| 水泳部 | 31 |
| バドミントン部 | 33 |
| 剣道部 | 35 |
| 吹奏楽部 | 36 |
| 弓道部 | 37 |
| 硬式野球部 | 37 |
| テニス部 | 38 |
| ソフトテニス部 | 39 |
| サッカー部 | 40 |
| ソフトボール部 | 41 |
| ダンス部 | 42 |
| ハンドボール部 | 43 |
| バレーボール部 | 44 |
| バスケットボール部 | 46 |
| 軟式野球部 | 46 |
| ラグビー部 | 48 |
| SSC（スーパー・サイエンス・クラブ） | 49 |
| 茶道部 | 50 |
| 軽音楽部 | 51 |
| 将棋部 | 51 |
| Jr. Com 部 | 52 |
| 美術部 | 53 |
| ジャグリング部 | 54 |
| 邦楽部 | 55 |
| 文芸部 | 55 |
| ホームライフ部 | 54 |
| クイズ研究同好会 | 55 |
| 国際交流同好会 | 55 |
| 演劇同好会 | 56 |

3. 個人活動紹介

| | |
|------------|----|
| ジュニア・サミット | 58 |
| みえ高校生県議会 | 60 |
| スポーツライティング | 61 |
| 津軽三味線 | 62 |
| フェンシング | 63 |
| 短歌・新聞標語 | 64 |
| 珠算 | 65 |
| 健康に関する作文 | 66 |
| 読書感想文 | 68 |
| 読書感想画 | 71 |
| 高校生ビブリオバトル | 72 |

1. 学校行事や委員会活動等の紹介

School Life

前期

4月

始業式・着任式・入学式、HR写真撮影
1年オリエンテーション
定期健康診断、面談週間、遠足
縦割りディスカッション、2・3年確認テスト

5月

前期生徒会役員選挙、定期健康診断
確認テスト、県総体、1・2年確認テスト

6月

中間考査、教育実習
東海総体、2年生修学旅行
1・3年校内模試、3年確認テスト

7月

2年校内模試、夏季レク大会
保護者会、「自分探し」、夏季課外

8月

夏季課外、「自分探し」
1・2年確認テスト、3年校内模試
中学生対象津高入門講座・見学会

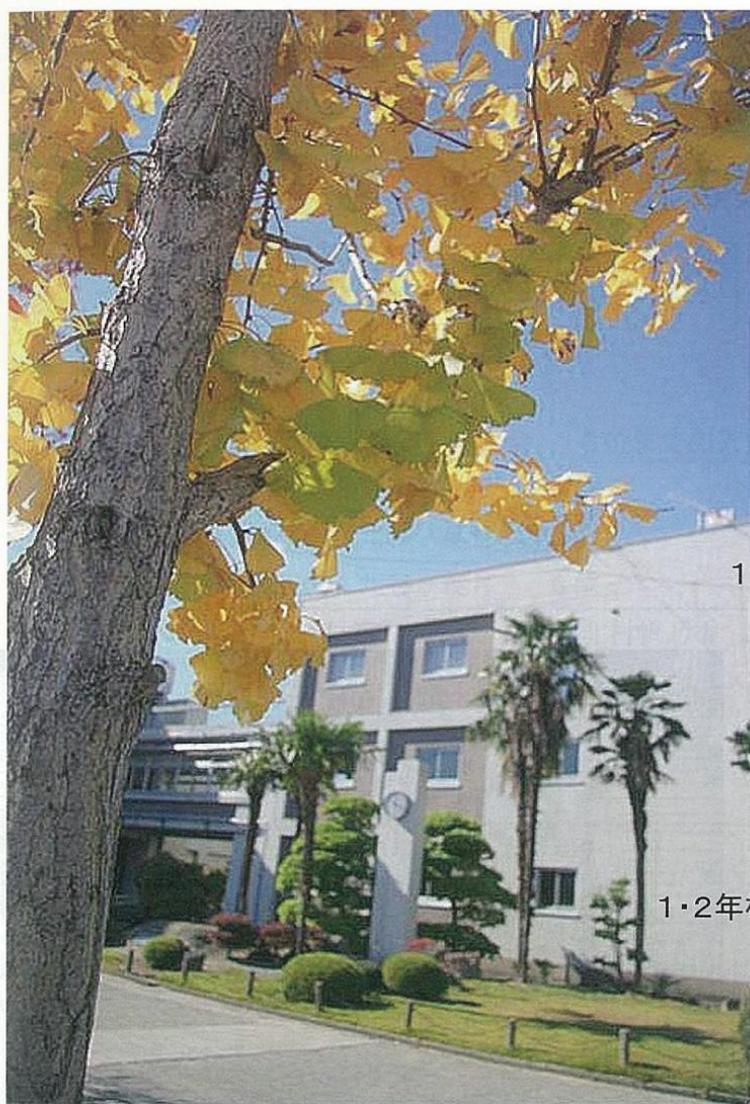
9月

文化祭、期末考査



School Life

後期



芸術鑑賞、体育祭
後期始業式、防災訓練
面談週間
人権学習
後期生徒会役員選挙

10月

創立記念日(1日)
1・2・3年校内模試

11月

1・2年中間考査、3年学年末考査
3年特編授業

12月

1・2年確認テスト
大学入試センター試験

1月

SSH 研究成果発表会
1・2年校内模試、国公立大学前期試験
卒業を祝う会(同窓会)

2月

卒業式、1・2年学年末考査
国公立大学後期試験
春季レク大会、修了式

3月

「生徒会活動の紹介」

「生徒会会長を経験して」

2年 安立 拓実 (白子中)

津高校は「自主・自律」のもと、生徒が主体となって生徒会活動を行っています。普段の生徒会室では次の行事について話し合ったり、会議の準備をしています。生徒会会長の仕事は対面式、体育祭、文化祭などのあいさつで、仕事がとて多くなるということはありません。しかし生徒会会長になると、どうしたら学校をよくできるだろうか、生徒会会長として何をすべきだろうかと深く考えるようになりました。その中でわかったことが、津高生の全員が何事にも本気で、自分たちで取り組む姿勢であるということです。それは部活動や学校行事、勉強面であらわれていると思います。生徒会も生徒のこのような姿勢に影響を受けてよりよい学校行事を作ろうと頑張っています。

また、津高校は個性的な生徒が多くいます。お互いが常に本気だと理解しているからこそ、お互いの個性を認め合い、刺激を受けて切磋琢磨することができる、それが津高校の魅力です。このように魅力的な生徒に囲まれ、自分から動くという「主体性」を持つことで高校生活を充実させることができます。

「文化祭担当の役割について」

1年 松林 由起 (西橋内中)

文化祭は、毎年総合文化センターで行われる非公開の部と、本校で行われる一般公開の部の2つにわかれていて、私たち文化祭担当はその企画・運営をしています。非公開は、合唱部、軽音楽部など多くの文化系クラブの発表が中心です。また伝統行事である先生方による教員劇や、生徒も有志で生徒会企画に参加できます。生徒会は当日のタイムテーブルを作り、出演者や音響業者の方と打ち合わせをします。一般公開は、各クラスの模擬店や文化系クラブの発表があります。生徒会は企画のチェック、模擬店の場所決め、当日のスリッパ配りをします。ほかにも入口に置くアーチを作っています。今回は10mを超えるアーチを作りました。



軽音楽部の発表

「レク大担当の役割について」

1年 今井 桃歌 (香海中)

レクリエーション大会、通称「レク大」は春・夏に3日間ずつ行われる、津高で最も盛り上がるイベントの1つです。普段は勉強ばかりの津高生も、レク大中は授業もないため、このときばかりは全力で遊ぶことができます。種目はバスケやバレー、サッカーなどの運動系からオセロや大富豪などの頭脳系、七並べなどの運次第のゲームまで様々で、自分が得意な分野で勝負することができます。また、先生と生徒が共に盛り上げられたり、クラスの団結力を強めたりができることも魅力の1つです。

さて、「レク大担当の役割について」ですが、企画や選手登録、会場・審判のセッティングなど色々な仕事を担います。当日は選手として全力で遊びつつも、津高生全員が楽しめるようにお手伝いをする、とてもやりがいを感じる役割です。



バスケットボール

「体育祭担当の役割について」

1年 永合 美織 (西郊中)

体育祭は1年間の行事の中で唯一3学年で協力する競技です。競技は障害物競走・騎馬戦・クラス対抗リレー・120人競技などです。120人競技はそれぞれの団が、組み体操やダンスを考えて作り上げました。皆で協力し合い、一生懸命練習したパフォーマンスはどの団もとても完成度が高く、見ていてとても楽しかったです。

今年の体育祭も素晴らしいものにできるように体育祭委員と協力して頑張ります。



騎馬戦



津高
2016年度文化祭

「奏」 非公開プログラム

| | |
|----------------|-------------|
| 1. 開会式 | 10:00-11:00 |
| 2. 開演式 | 11:00-11:30 |
| 3. 音楽部 | 11:30-11:50 |
| 4. 演劇部 | 11:50-12:10 |
| 5. 生徒会企画プログラム | 12:10-12:30 |
| 6. 校歌 | 12:30-12:40 |
| 7. 昼食・お昼寝 | 12:40-13:30 |
| 8. 演劇部 | 13:30-14:00 |
| 9. 音楽部 | 14:00-14:30 |
| 10. 生徒会企画プログラム | 14:30-14:50 |
| 11. 演劇部 | 14:50-15:05 |
| 12. ジュニア部 | 15:05-15:30 |
| 13. ショーダンス部 | 15:30-15:50 |
| 14. 演劇部 | 15:50-16:15 |
| 15. 閉会式 | 16:15-16:40 |
| 16. 校歌 | 16:40 |

2016年 9月9日(金) 観覧文化祭



文化祭
9月9日(金)
11日(日)



体育祭 10月5日(水)



「修学旅行を終えて」

修学旅行委員 2年 中尾 仁美(橋南中)

私は、自分たちの修学旅行をより楽しくしたい、いい思い出をたくさん作りたい、という思いから修学旅行委員になりました。私たちは各クラスに2人ずつ、9クラスの18人で活動しました。はじめ、委員のする仕事が思っていたよりもたくさんあり、きちんと出来るのか不安に思いましたが、それ以上に高校の修学旅行で、ここまで生徒たちのやりたいことが出来ると思っていなかったのが驚き、楽しみな気持ちがどんどん膨らんでいきました。準備の期間も委員全員が協力し、各自が自分のすべきことを出来たように思います。各クラスでの見学地を決める時、皆の意見を聞きつつ時間なども考慮し、全て委員で考えて決めなければなりませんでしたが行ったことのない場所で分からないことだらけでしたがその分期待は大きく、その時から盛り上がり、楽しかったです。上手いかないこともたくさんありましたが、クラスの皆や先生方、旅行会社の方にたくさん助けをいただき、無事修学旅行を終えることができました。修学旅行当日は予想以上に楽しくて、本当に終わってほしくないという気持ちでいっぱいでした。



私は委員長になったことによって、より緊張感を持って委員の仕事に取り組めたと思います。また、大勢の前で喋る機会があったりしてすごく良い経験となりました。たくさんの新しい経験をしたことで、もっと修学旅行が良い思い出となりました。360人に向けて、クラスに向けて、何かをしようとするのは初めてのことで自分たちの考えたことが形になるのはすごく嬉しかったです。修学旅行が始まる前から終わるまで大変なこともありましたが、皆に「楽しかった！ありがとう！」とたくさん声をかけてもらい、やって良かったと達成感を得ることが出来ました。そして、クラスメイトの温かさをいつも以上に感じました。津高校ならではの自由さで、本当に良い思い出に残る修学旅行となりました。一度きりの高校生での修学旅行を最高のものにするために皆で頑張った良かったと思います。修学旅行が終わり、自分たちの仕事を反省したとき、改善点や良かった点がいくつかあったので、これらを次の学年に生かしてもらい、より良い修学旅行になればいいな、と思います。



東京大学キャンパスツアー参加報告

7月19日（火）から20日（水）にかけて、東京大学キャンパスツアーが開かれ、希望生徒36人が参加しました。東京大学本郷キャンパス到着後、工学コースと農学コースに分かれて研修を受け、夜は本校OBの東大生と座談会を行いました。参加者何人かの感想を下記に載せます。

1年 石渡 友紀乃（桔梗が丘中） 農学コース参加

農学部の久保田先生に農学部資料館や研究室などを案内していただきました。また、生物に関する講義を受け、パンフレット、スライドを見て、クワガタや昆虫の新種・亜種についてのお話を聞かせていただきました。今日の活動の中で特に印象に残ったのは、久保田先生のお話です。「就職に学部はあまり関係なくなっている。」「ただ一見、大学での学部と関係が薄そうな職についても、学んだことを仕事で生かしている人もいる。」との言葉に将来の可能性を感じました。また研究室の中では、高価な機械を見ることができたのが興味深かったです。

座談会では、先輩方のお話がとても面白く、普段の授業・課題のモチベーションとなりました。特に苦手意識の強い数学に関することや私が今考えている文理選択のことなどについて、お話を聞いたのがとても参考になりました。

1年 徳田 創紀（南が丘中） 農学コース参加

実際に東大に行ってみると、今までに写真などで見るのと違い、とても歴史ある建物が多くあり、長い歴史の上に今の東大がわかるのだと思った。また農学部の講義では今までは農学部とは生物などの一部の分野だけを学べるのだと思っていたが、講義を聴き、東京大学の場合は文系からでも農学部にすすむことができ、また、農学も、経済的な分野から環境的な分野にいたるまで、幅広い分野があり、自分はまだ知識がうすいことがよく分かり、これからも多くのことを能動的に調べていこうと思った。また、夕食後の座談会では東大生の方から、「文理選択のコツ」、「時間の使い方」、「なぜ東大がよいのか？」などの質問に答えてもらえて、より東大の魅力を感じることができた。このキャンパスツアーで学んだことを生かして、これからの高校生活をより充実したものにしていきたい。



1年 坂野 智紀 (橋南中) 工学コース参加

講義では電子顕微鏡の歴史や日本での動きなどを知った。特に今日の講義をうけた教授の研究内容の酸化鉄を物質に含ませて、その物質を固くするというのにはとても興味を引かれた。また、その後の電子顕微鏡の見学では、その有用さその質の高さ、その精密さを目の前で実感して、非常に感心した。もっと顕微鏡の詳しい仕組みを知ってみたいとも思った。キャンパス内の見学では、東京都内のビルの一隅にあるようにスタバなどのチェーン店があることに驚いた。またローソンが東大内の歴史ある雰囲気にもみこまれてあったことにも驚いた。

座談会では津高という宿題やテストが厳しい世界に生き抜き、見事に東大に合格した先輩方の経験に基づくアドバイスを聞け、自分がこの先何をしていけばよいか、具体的に知ることができた。学習習慣や学習時間、学習内容などの参考となり、もっと自分を高めていけるだろうと思った。

1年 工学コース参加

工学部で原子と電子顕微鏡についての講義を聴いて、原子の構造と表面の形に興味が増えました。そして電子顕微鏡には大きく2種類あるということに驚きました。走査型電子顕微鏡は物質の表面の形が細かいところまでよく見えて、とても面白かったです。また、ただ観察するだけでなく、表面のどこに何の物質が含まれているかも調べることができて楽しそうだと思います。透過型電子顕微鏡は物質を薄くして電子を透過させて物質の内部構造を観察することができて電子の構造まで見られるのは凄いです、やってみたいと思いました。先輩方との座談会では、東大に入ってよかったこととして、たくさんのすばらしい人に出会え、刺激をもらい、自分を高めることができるとおっしゃっていて、私が津高に対して感じていたことと同じだなあと感じました。グループ別での交流で数学のことについて、区切りがつく範囲まで習ったら復習する、テスト前にテスト勉強にすぐ取りかかるように、問題集の答えは全て埋めておくことなど、たくさんのアドバイスを頂いたので、これからの学習に生かして先輩方みたいになりたいと思いました。



「マレーシア研修報告」

8月1日(月)から5日(金)にかけて行われたマレーシア研修参加者の報告です。1年生19名、2年生9名が参加しました。

マレーシア研修

<行程>

8月1日(月) マレーシアへGO!

8月2日(火) 「SMK ASUNTA」へ女子学校
バクタニ村に到着←ホームステイ!

8月3日(水) フトラジャヤ観光
フェアウェルパーティー(民族衣装で参加)

8月4日(木) クアラルンプール観光

8月5日(金) 日本へ帰国

マレーシア女子学校で
同学年の生徒たちと
日本とマレーシアの
国際交流

<SMK ASUNTA>



互いに本国の良さを披露しました!

<パキタニ村>



パキタニ村でホームステイ!
トイレトペーパーがなかったり、
手を使って食事をするなどの
異文化体験は大変でしたが、
他国文化の良さを知れて良かったよ。

← ホーム油

パキタニ村のお別れ
パーティー! みんなで
マレーシアの民族衣装
を着て、食べたり、踊ら
りして、楽しかった反面
別れが辛かったな。



食べ物
基本的に辛かった
けど美味しかった
です。

チャニハニなどのご飯もおいしかった
千子の揚げ豆腐や魚が大好きと食べてくれたことある!
デザートにはスイカやメロンが美味しかった!

SSH

(スーパー・サイエンス・ハイスクール)

津高校のSSHは文部科学省指定通算10年目を迎えています。今年度のSSH事業を紹介します。



5月 2年講演会 乗本裕明先生



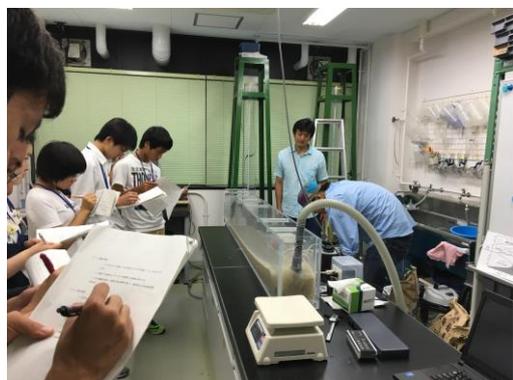
6月 1年講演会 大野照文先生



7月 1年 農業研究所研修



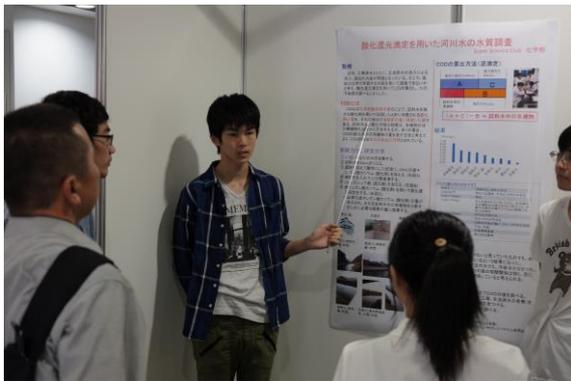
8月 1年 総合博物館昆虫研修



8月 2年 京都大学理学部研修



8月 2年 大阪大学ナノ研修



7月 東海フェスタ



8月 全国SSH生徒成果発表会



1月 1年 ポスター・セッション



2月 生徒成果発表会

「研究を伝えるということ」

2年 落合 均美 (三重大学附属中)

今回の「SS研究活動」医学部研修を通して、研究の楽しさと難しさを学んだ。計10回の三重大学での研修は、石井健一朗先生から基礎的な医療についての知識を学んだのち、自分たちで「癌」に関する研究課題を見つけ出し、実験・研修を進めていった。現在の癌の課題を発見し、それを紐解く手がかりを探していく活動は私たちにとって難しいことだったが興味深かった。普段の学習のように、教科書に書いてあることを理解するのではなく、不思議を探究していく研究がとても魅力的に感じた。また、今回の研究は4で行ったため、チームワークも大切に感じた。4人での研究は、チーム内で意見が分かれたり衝突したりすることもあったが、4人で行うことの意義も感じた。多くの意見や見解があることにより、より理解が深まったからだ。また、「研究とは実験をして結果がでることに意味があるのではなく、それを誰かに伝えることに意味がある。」という石井先生の言葉が印象的であったが、2回の発表を終えた今、その言葉の意味が分かってきたように思う。放課後を利用してのパワーポイント作りはなかなか伝えたい事が、数十枚のスライドにまとまらず、苦戦した。「自分たちが学んだことをいかに分かりやすく相手に伝えるか」が課題だった。考えに考えた分、発表を終えた時の達成感は大きかった。私は今、医科栄養学科をめざしている。大学に入ったら、癌を食で治す研究をしたいと思っている。SSH活動を通して学んだことを活かし、これからも研究を続けていきたい。今回このような研究活動を行える機会を与えられたことに心から感謝している。

今年度 1年ポスターセッションからの1作品

SS探究活動
「家庭」

勝てる体へ ごはんの力

メンバー：1年 9組坂本 9組西尾 3組高橋 3組太田



(はじめに) : 日頃から何気なく食べている「ご飯(米)」だが、2016年4月28日付の朝日新聞「勝てる体へ、ご飯の力」の記事から、強い体をつくるためには、「主食」「主菜」「副菜」「汁物」「乳製品」の「5つの輪」をバランスよくとることが必要で、特に主食となる「ご飯(米)」を食べることが大切であるということがわかった。私たち高校生は、部活動や塾の帰りにコンビニに立ち寄って、自分の嗜好にあったものだけを買って食事をすませることも多くある。このことから、自分の食生活を見直すきっかけとして、記事の内容から主食に焦点を絞り、米の栄養価や食生活のあり方を考え、さらに「米を科学する」ことへと発展させる。

1. 研究の方法

- (1) 実態調査 1学年4クラスの食生活状況を集計
- (2) お米のアミノ酸価について
- (3) まとめ 勝てる体をつくるために
- (4) お米を科学する

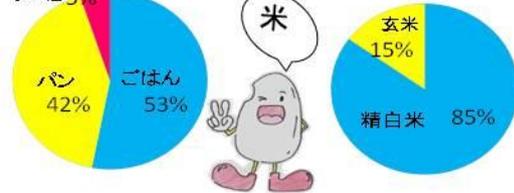
2. 実態調査

対象:津高校1学年4クラス160名 平成28年7月実施

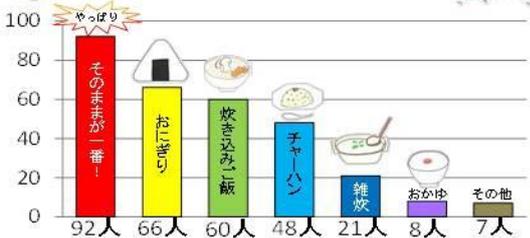
- Q1:朝食は食べていますか
1. 毎日食べる→92%
 2. 週に3~4回→4%
 3. ほとんど食べない→4%

Q2:朝食の主食は何ですか。

Q3:いつも食べているごはんは「精白米」と「玄米」のどちらですか。



「ごはんはどのように調理されているのが好きですか」のコーナー



3. お米のアミノ酸価について

アミノ酸の種類
① 必須アミノ酸
タンパク質を構成する20種類のアミノ酸のうち体内で構成されない9種類のアミノ酸→食事から摂取する必要がある。
② 非必須アミノ酸
体内で合成することができるアミノ酸→食事から摂取する必要がない。

- 必須アミノ酸の効果**
- 成長促進
 - 神経・肝機能向上
 - 筋力向上
 - 体組織の修復

勝てる体に!!

| 食品名 | アミノ酸価 |
|--------|-------|
| スパゲッティ | 45 |
| うどん | 49 |
| 食パン | 49 |
| 精白米 | 89 |
| 玄米 | 96 |

パンや麺類よりもごはん!!

出典:生活Navi 資料+成分表 2016 実教出版

4. まとめ

① 日本型食生活を見直して健康的な毎日!

《日本型食生活のメソッド》

- ・生活習慣病を防ぎ、健康な体!
- ・太りにくい!
- ・病にかかったときの医療費を考えるとお金の節約に!

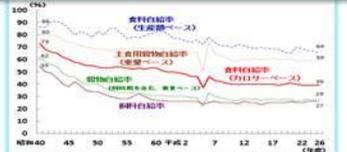
一汁三菜



② 食料自給率に関心を持つ

国内の食料消費が、国産でどの程度賄えているかを示す指標

日本は世界一の農産物輸入国だが、米の自給率はまだ高い。しかし最近食の多様化で海外の米を輸入することが多くなっている。せっかく日本の国土でおいしいお米が作れるのだから日本のお米をいっぱい食べよう!!



出典:農林水産省「食料需給表」

③ 食生活指針を意識する

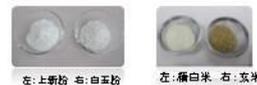
どのように食生活を組み立てればいいのかを示す指標

- ・食事を楽しみましょう。
- ・1日の食事のリズムから健やかな生活リズムを。
- ・主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。
- ・ごはんなどの穀類をしっかりとうろ。

日本のお米をたくさん食べよう!

お米を科学する

玄米と精白米の違いは...? 上新粉と白玉粉の違いは...?



上新粉、白玉粉とは?

→ この2つはお米の粉なのです

- 上新粉...うるち米(ご飯を炊くときのお米)からできた粉。柏餅に向いている。
- 白玉粉...もち米からできた粉。みたらし団子に向いている。

実際に調理して食べ比べてみよう!

実施日 2016年8月31日

A 精白米・玄米を炊く

①材料

精白米・玄米 水

②出来上がり

B 柏餅・みたらし団子を作る

①材料

○ 柏餅...上新粉・水・砂糖・こしあん
○ みたらし団子...白玉粉・水・砂糖・しょうゆ・片栗粉・豆腐

②調理中...

③出来上がり

☆ちがいは...?
玄米...少しにおいが気になる。水を多めに炊かないと硬くなる。もみ殻を剥いたお米なので栄養価が高い。
精白米...玄米よりお米の味がする。搥精してあるのでやわらかい。つやがある。甘い。
柏餅...みたらしより固くなる。甘い。みたらしほどのみちがなし。弾力がない。
みたらし団子...やわらかい。のびる。弾力がある。

「うるち米」と「もち米」のちがいは...でんぷんの構造にあった!
でんぷんの構造...アミロースとアミロペクチンの2種類がある
アミロース...ぶどう糖がらせん状になっている。からまりにくい。ばさばさとした堅い食感になる。
アミロペクチン...ぶどう糖が層状になっている。棲分かれの部分がからまるため、粘り気が強くなる。
柏餅...うるち米の粉(上新粉)アミロースとアミロペクチンで構成→弾力(強い)が少ない
○みたらし団子...もち米の粉(白玉粉)アミロペクチンのみ→弾力(粘り)が強くなる

「2 学年人権委員会活動報告」

2 年

岸上直生(桔梗が丘中)、村越翔(名張南中)

田中皐(朝陽中)、山本晋太郎(名張中)

私たち人権委員はアイヌ民族や在日外国人の人権について、早くから松浦武四郎記念館を訪れたり、毎週昼休みにランチミーティングをするなどして知識を深めました。身につけた知識を生かし、6月の初めに人権委員が中心となって集会の時間に「アイヌ民族」について学ぶ機会を作りました。そこでは、松浦武四郎記念館から学芸員の山本命さんを学校に招き、人権委員の発表の後、足りない部分を講演をしていただきました。

また、「外国人の人権」と「死刑制度」についても学びました。「死刑制度」については、私たち人権委員が各クラスで独自に授業を行うという形でみんなに学んでもらおうと考えました。みんなに教えることができるようになるために私たちで早朝勉強会を開き、死刑制度について考え、それぞれが意見を持てるぐらい勉強しました。そして、授業のやり方を考える中で、どうしたらクラスの皆に分かってもらいやすいか、皆に興味を持ってもらえるか、みんなの立場になって考え工夫しました。最初に質問を投げかけたり、わかりやすい具体例を考えたり、話し合いやディスカッションの班の構成を考えたりして、話しやすい雰囲気をつくれるよう考えました。

そして行った人権 LHR では、ディベートや班に分かれての学習など、様々な手段を用いてクラスのみみんなで考える機会を作りました。当日は人権委員が考えていた以上にみんなが活発に参加してくれ、授業後のアンケートでも全体的に人権 LHR に満足してくれた人が多く、みんながしっかりと考えてくれたのだと実感しました。

活動の時期が定期考査と重なったり、放課後の作業に及んだり苦勞することも多く、決して楽とは言えませんでした。活動を終えた後の達成感はずばらしいものでした。授業を考える中で自分たちが中心になって考えた経験は今後にもつながると思います。約一年間の活動を通し大変なことも多かったです。最後にはやってよかったと思えることができ、よかったです。



「アイヌ」人権集会

人権 LHR 「死刑制度について」
での ディベート や 討論



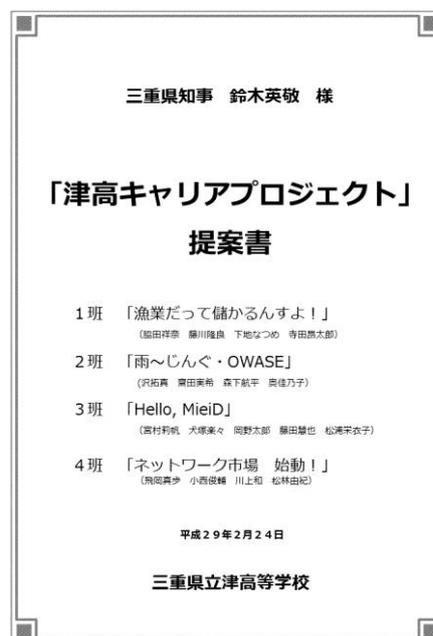
津高キャリアプロジェクト 2016『西村ゼミ』

10月25日(火)より4回、三重大学副学長の西村訓弘先生ご指導の下、ゼミを開講しました。17名の生徒が4班に分かれ、三重県を活性化するために企業するという設定で、アイデアや情報・知識など若い力を結集し、企画を練り、プレゼンを行いました。毎回、西村先生からご指導、ご助言をいただき、回を重ねるごとに生徒たちの成長している様子が見えてきました。

こうして出来上がった企業提案書は平成29年2月24日に三重県知事にご覧いただく機会を得ました。この経験を通して、生徒たちは、論理的思考力とコミュニケーション能力を向上させ、人前で堂々と発表することにより、それぞれが自信を高めたようです。また、この経験を生かして、将来、生徒たちが、知的好奇心を発揮しさまざまな分野で活躍してくれることを願っています。

「津高キャリアプロジェクト」提案書 (タイトル)

- 1班「漁業だって儲かるんですよ！」
- 2班「雨～じんぐ・OWASE」
- 3班「Hello,MieiD」
- 4班「ネットワーク市場 始動！」



2. 部活動紹介編



全国大会・東海大会等へ参加した部活動を先に紹介しています。

ボート部 *since 1887*

活動内容 28年度例

- 4月 体験入部・試漕会
- 5月 琵琶湖遠征
県総体兼インターハイ予選
- 6月 東海総体
- 7月 国体東海予選
- 8月 インターハイ(5泊6日島根県)
夏季合宿(2泊3日大台町)
- 9月 県新人大会(大台町)
- 10月 東海選抜大会(愛知県)
- 1月 ウインターカップ(大阪府)
全国マシローイング近畿大会(滋賀県)
- 3月 全国高校選抜大会(静岡県)
U19 日本代表選考会(埼玉県)
春季合宿(2泊3日 愛知県)

練習時間

- 月～金 16:20～18:30
- 土 8:30～15:30
- 日 休み 試合前は自主練習

H28年度 主な戦績

- ・三重県高校総体
男子 総合 **9年連続優勝**
女子 総合 **2年連続優勝**
- ・三重県高校新人大会
男子 3種目 **優勝**
女子 2種目 **優勝**
- ・全国総体
男子ダブルスカル、女子ダブルスカル、女子シングルスカル
準々決勝進出
- ・中部高校選抜大会
男子ダブルスカル **東海 2位**
→全国選抜大会への切符獲得
女子シングルスカル **第5位**
- ・全国マシローイング大会
女子ランキング **7位**
→2017 U19 日本代表候補選手



「インターハイに出場して」

2年 福田 脩登 (南郊中)

僕たちボート部は、島根県さくらおろち湖で開催されたインターハイに出場しました。
僕は去年のインターハイに補欠として行きましたが、やはり選手として出るのとでは緊張感も段違いでした。
僕は男子舵手付きクオドルに出たのですが、他の県のクルーに全然付いていけず、予選敗退という結果に終わり、とても悔しかったです。でもその試合の時に見た先輩方の最後まで全力で戦い抜く姿はとても強く、美しかったです。次のインターハイではそんな先輩方の姿を僕たちが受け継ぎ、後輩たちに伝えていきたいです。今、部員一丸となって、H29年の宮城インターハイをめざしトレーニングを積んでいます。そして全クルーが決勝進出を成し遂げるという目標を持って頑張っています。一緒に楽しく！一生懸命！放課後、部活に励みましょう！

* なお詳しい活動内容は三重県ボート協会ホームページをご覧ください。
<http://miera.jp/>

書道部

◇新入生歓迎パフォーマンス(4月)



◇実技講習会

(6月11日(土) 三重県教育文化会館)



◇第40回全国高等学校総合文化祭広島大会(7月30日~7月31日)

広島県立広島産業会館・広島市南区民文化センター

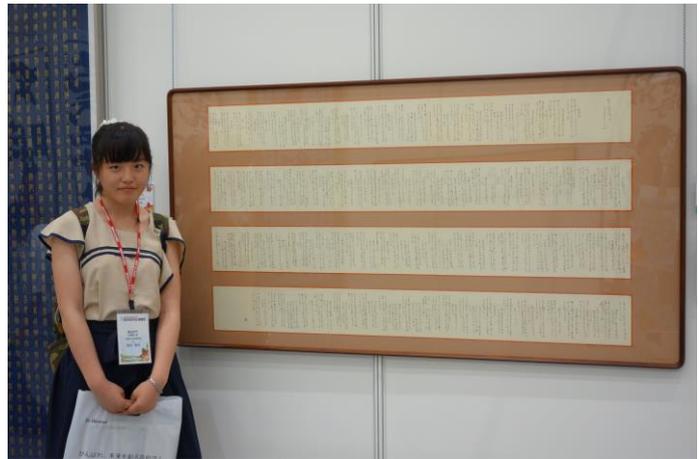
出品作品①



3年

稲野純弥 篆書千字文出品

出品作品②



3年

奥田真衣 (臨) 中務集



◇文化祭 書道パフォーマンス

◇第 37 回みえ高文祭書道部門(10 月 21 日～23 日) 三重県文化会館第 1 ギャラリー
特選 2 年 坂崎亜実 (臨) 楊峴

第 41 回全国高等学校総合文化祭宮城大会
(平成 29 年 8 月仙台市) への出品権を獲得



◇第 14 回岐阜女子大学全国書道展
三重県教育委員会教育長賞 1 年 山脇麟神

◇第 21 回三重県高等学校文化連盟書道部門夏季錬成合宿(8 月 14 日～16 日 in 鈴鹿青少年センター)

◇第 25 回国際高校生選抜書展

団体の部 東海地区 優秀校

個人の部 優秀賞 中森明日香(2 年)

秀作賞 坂崎亜実(2 年)

入選 飛岡 佳歩(2 年) 山脇麟神(1 年)

樋口 美奈(2 年) 夏目小麦(1 年)

板谷のぞみ(2 年) 田中相真(1 年)

◇第 21 回全日本高等学校書道コンクール(1 月 8 日)

全日本高等学校書道教育研究会賞 2 年 中森明日香

◇ 第 59 回名張市民美術展覧会 岡田文化財団賞

2 年 中森明日香 (臨) 九成宮醴泉銘

◇ダンス部とのパフォーマンス in 美杉（美杉リゾートホテルアネックス）



◇第 44 回書道部門生徒教員展（2月5日～7日）三重県立美術館 県民ギャラリー）

| | | | | |
|-----|----|-----------|---|----------|
| 出品者 | 特選 | 山脇麟神（1年） | 臨 | 粘葉本和漢朗詠集 |
| | | 夏目小麦（1年） | 臨 | 楽毅論 |
| | | 田中相真（1年） | 臨 | 行書千字文 |
| | 特選 | 上田美沙紀（1年） | 臨 | 王鐸 |
| | | 松井志乃（1年） | 臨 | 山頭火の句 |

*** 山脇麟神・上田美沙紀は第 37 回近畿高等学校総合文化祭大阪大会（平成 29 年 11 月）への出品権を獲得**

第 40 回全国高等学校総合文化祭広島大会に参加して ～支えられる側から支える側へ～
3年 奥田 真衣（南が丘中）

私は、この全国総合文化祭に参加することが一番大きな目標でした。そんな私に、「おめでとう！」と、先生から全国大会出場の報告を頂いた時、本当に嬉しくて、これは夢なんじゃないかと何度も思いました。でも、やるからには三年間の集大成として、悔いのないように全ての力を出し切ろうと決意し、一心不乱に作品作りに取り組み、全国大会に挑みました。大会当日は、どんな素晴らしい作品が展示されているのだろうという期待と緊張が入り交じった気持ちでいっぱいでした。そんな中で、いざ展示会場に入ってみると、私と同じ古典を臨書している人の多さにとても驚きました。また、同じ古典の臨書であっても、その人それぞれの特徴や作品に込めた想いまでもが伝わってきて、作品の気迫に圧倒されました。『人のふり見て我がふり直せ』という諺があるように、勉強させられることが沢山あり、改めて書道の奥深さを感じることができたと思います。その後行われた交流会では、初めて出会う人と一緒に作品作りする難しさを痛感しました。けれども、こんな機会は滅多にないから全力で楽しもうと思い、積極的に班の子達に話しかけました。私は、普段一人で黙々と作品作り打ち込んでいたので、初めての合作はとても新鮮でした。コミュニケーション能力の向上にも繋がったと思うし、何にも変え難い大切な思い出を作ることが出来て良かったです。そして私はこの大会を通して、多くの人に支えられていることを実感しました。私がこの大会に参加出来たのは、本当に熱心な先生のご指導のおかげです。他にも、この大会の為に関わって下さった全ての人に感謝したいです。将来は、支える側の立場で能動的に書道の素晴らしさを伝えることが出来たらなと思います。

第 37 回みえ高文祭「特選」を受賞して

2 年 坂崎 亜実 (千代崎中)

高校 1 年生の秋、私はみえ高文祭に出品された先輩方の作品を見て、とても感動しました。その時から、みえ高文祭に作品を出すことが、私の目標になっていました。

それから毎日、私は書道教室に通って、「曹全碑」という古典の臨書に取り組みました。「曹全碑」は、隸書の中で代表的な古典です。しかし、いくら書いてもあまり上達しませんでした。どれだけ書いても無駄なのではないか、もうやめてしまおうかと思ったこともありました。そんな時、先生が私に、楊峴の「古四種卷」を紹介してくれました。

楊峴の字は、隸書の中でも独特な線質が特徴です。最初はその線質を表現するのが大変でしたが、書いていくにつれて、しだいに楊峴の字の魅力にひかれ、今までよりも夢中になって取り組みました。

2 年生になり、みえ高文祭が近づいてきて、出品作品の制作期間は 2 週間という短い間でしたが、1 字 1 字丁寧に、気持ちを込めて書くようにしました。2 週間で大きな作品を仕上げるのは大変でしたが、作品が完成したときは、とても達成感があり、みえ高文祭に出品することができて本当に良かったと思いました。

作品が完成してから 1 週間後、特選を受賞したという知らせを聞き、私は信じられない気持ちになりました。それと同時に、自分の今までの努力が報われたような気がして、とても嬉しかったです。

特選をいただくことができたのは、熱心に指導して下さった先生や励ましてくれた書道部のみんな、支えてくれた家族のおかげです。そして、私は書道部での取り組みを通して、努力することの大切さを学ぶことができました。この経験を活かして、これからも頑張っていきたいと思います。

第 25 回国際高校生選抜書展（書の甲子園）で受賞して 2 年 中森明日香（桔梗が丘中）

ずっと憧れていた津高校書道部に入部し早二年、今振り返ると、あっという間でとても充実した密度の濃い時間でした。

様々なコンクールへの出品の他、公の舞台や外部からの書道パフォーマンスの依頼、春の選抜高校野球で使用するプラカードの揮毫、と沢山のチャンスを頂き、その経験の積み重ねが、自信に繋がっていきました。

一方で、弓道部との兼部で、好きなことをどちらも精一杯頑張りたいという気持ちと、周りへの迷惑に対する忸怩たる思いの狭間で何度も悩むことがありましたが、それを理解し支えてくれる仲間が助けてもらったおかげで、真剣にコツコツと頑張ってきたと思います。

これまでの集大成であった、国際高校生選抜書展（書の甲子園）で優秀賞を受賞できたのは、切磋琢磨し合える仲間、頼れる友達、支えてくれる家族、そして、様々な機会を与え指導して下さった先生の存在があったからだと思います。

好きなことをやってこれた喜びを噛みしめ、これからもいろいろなことに前向きに挑戦していきたいと思います。

新聞・写真部

- ◇第40回全国高校総合文化祭広島大会…参加
- ◇第36回近畿高等学校総合文化祭兵庫大会…参加
- ◇第35回高校新聞コンクール（三重県）…最優秀賞受賞 2016年10月23日
- ◇三重県高文連新聞部門 紙面技術講習会…参加〔於：津高（6月）、名張高（2月）〕
- ◇三重県高文連新聞部門 夏期講習会…参加〔於：伊勢（8月）〕

全国高文祭参加報告

2年 市瀬佑希（豊里中）

今回、第40回全国高等学校総合文化祭新聞部門に参加させていただいた。私は初対面の方と会話をしたり、意見を言ったりすることが苦手だ。そのため今回の大会出場も最初は不安だった。しかしこの大会で他校の方々の紙面の構成や取材方法を学び、今後の津高新聞づくりに活かそうと思い意気込んでいた。

私の班員は積極的かつ手際の良い方が多く、取材内容やレイアウト、記事の作成をテキパキ行い、取材先ではためらいなく質問をしていて、ついて行くだけで精いっぱいだった気がする。

そこで学んだことは、コミュニケーションの大切さだ。それはただ班員と楽しくおしゃべりをするのではなく、これは私の班の編集長も言っていたのだが「ホウ（報告）・レン（連絡）・ソウ（相談）」という意味でのコミュニケーションの大切さだ。新聞を作るのはもちろん一人ではなく、班員全員だ。記事の内容などを全員が把握していなければ統一性が無くなってしまう。最初私の班はそのような「連絡」を怠ってしまったため、私の記事と班の他の人の記事の内容がかぶってしまった。私はすぐに報告しようと思ったのだが、「報告が遅い」と言われなかったかとか「仕事がたくさん残っているなか邪魔かな」とか無駄に考えてしまった。しかし、これではいけないと思い、意見を言うことができた。班の方も快く動いてくれ、問題点を改善できた。私も意見を言うことができて成長できたと思う。

また、班員に筆談で会話をする人がいた。私はコミュニケーションの取り方が分からず、どことなく躊躇してしまった。班の人も初めてなのか会話はできていなかった。しかし、編集長だけは積極的に筆談で会話をし、その人の意見も取り入れていた。私は自分の情けなさに愕然とした。

今回の大会でコミュニケーションを上手くとれたかどうかと問われたら、はいとは言いがたいが、学んだことを忘れず、いつか似たような場面に遭遇した時に思い出し、恥ずかしくない態度をとりたい。いろいろ勉強になった大会だった。

全国高文祭参加報告

2年 矢原圭祐（三重大学付属中）

私は今回、全国高等学校総合文化祭広島大会に出場して、いろいろな経験をすることができた。最初は、広島という今まで行ったことのないところで、全国から来た会ったことのない生徒と交流新聞を製作することにとっても緊張と不安があった。

しかし最初の交流会で班を作ったときに、自分が思っていたよりも班の人が積極的に取り組んでいたため、自分も三重県代表として負けていけないと思って、緊張や不安は消え去り、積極的に活動することができた。

交流新聞製作のときには、私は「広島県の観光戦略を探ろう」というコースに参加したが、普段の学校での新聞作成と同じように取材し記事を書くだけでなく、さらに三重県で行う新聞の取材では出ないような質問など、様々なことを他県の生徒から得ることができた。いろいろな視点から質問をして話を引き出して取材することが大変勉強になった。

またこの体験によって、同じ班の新聞部メンバーの出身地について会話ができて、独自の風習も聞けて、都道府県の違いにおもしろさを感じた。

今回学んだたくさんのお話を、津高校新聞・写真部、および三重県の各学校の新聞部員

に伝え、三重県の高校の水準がより一層高まることを目標に、これからも作成していきたいと思う。最後に、私はこのような貴重な大会に参加できたことを誇りに思う。

近畿高文祭参加報告

2年 浅越雄介 部長 (三雲中)

私は11月19～20日、近畿高校文化祭新聞部門に参加した。この大会を通して私は大きく2つのことを学んだ。

まず1つ目は、協力しあうことの大切さだ。この大会では、近畿圏の高校の新聞部員が交流し数十班に分かれて、手書きで新聞を作る。その際に最も大切に感じたことが班員の協力だった。自己紹介してから間もなく紙面作成に入り、すぐに取材へ行く。取材時間が限られており、ここでいかに協力し合えるかが紙面作成において重要だったと思う。

私の班は王子動物園に取材に行った。天候には恵まれず、取材先が動物園内と限られている中での行動だったが、班の中で二手に分かれて取材を行った。互いが初対面で少し緊張もしていたが、協力しながら臨機応変に取材を終えた。翌日の紙面作りは時間が少なく大変だったが、皆の協力で素晴らしい新聞を作ることができた。互いのことを考えたこの協力がなかったら、このようなものは完成できなかったと思う。

2つ目は、リーダーシップの必要性だ。私の班は2年生が多く、皆が遠慮しあっていたので、だれが編集長かということを決めずに取材へ向かった。このこともあって、班を仕切る人がいないまま紙面作成に入りそうな雰囲気になっていた。私はこのままではまずいと感じ、思い切ってリーダーシップをとってみることにした。紙面の方向性や、記事の本数、レイアウトなどを私が中心になって決めていった。我ながら比較的スムーズに決まっていたと思う。そして無事、私がリーダーシップをとったまま、紙面が完成した。自分が中心になって作っただけにすごく嬉しかった。しかし思い返してみると、班員の協力に支えられていたのだと気付く。先に述べたように、私も協力することが重要だと思い、活動していた。だが一番その協力を助けられていたのは私だったのだ。そのおかげで私はリーダーシップを取り続けることができ、紙面も完成したのだった。

今回学んだことはこれだけではないが、それらのことをこれからの部活動に役立てたい。

みえ高文祭参加報告

1年 矢原渚彩 (霊峰中)

私にとってこの高文祭はあっという間に過ぎ去っていったように感じる。オープニングでは新聞部代表としてプラカードを持って入場したが、あまり出来ない体験であり、2回のリハーサルを経た後の本番は想像していた以上に観客の方々が来場しており、驚いた。もともと人前に出ることがあまり得意ではない私は、あまりの人の多さに常に斜め上を見上げていた。改めて、この高文祭に関わっている人のつながりの強さを感じた。

また自らが取材のアポイントメントをとり取材をして記事を書く、というすべての一連の流れを初めて自分一人で行った。元来のあがり症もあってか、取材は事前に用意してあったメモの質問しかできなかったことが、痛恨の極みである。

しかし校外で今まで接点のなかった部活動の話を知ることが、とても素晴らしい経験になったと思う。私が新聞部に入ったきっかけは、人と接するのが苦手な自分を変えたいと思ったからで、今回の高文祭はそんな私にとってたくさんの人と話すことができるとてもよい機会だった。今までの自分であればどうもいできなかったであろうことだが、他校の新聞部員に友人もできた。

私は今まで「みえ高文祭」というものを知らず、文化部にもこのような大きな行事を通して様々な場所で多方面の交流を持つことができる場所があるのだと実感できて、嬉しかった。このような機会は滅多にないため、次回もまた参加したいと思う。そして、これからも高校新聞の活動に少しでも貢献していきたい。



▲近畿総文祭に参加した津高校新聞部

**吉田沙保里大賞を受賞
スポーツライティング 田嶋さん**

吉田沙保里選手の大賞を受賞した田嶋さん。取材の様子も紹介されています。

幸福なピアノの響き

音楽部員による演奏の様子や練習風景が紹介されています。

読者の声

読者の感想や意見が掲載されています。

写真コンテスト

写真コンテストの結果や作品の紹介が掲載されています。

**津高ガールズ
各分野で大健闘**

女子部員による活躍の様子や大会結果が紹介されています。

書の手子園で入賞

書道コンテストで入賞した部員の話が掲載されています。

尾鷲節で準備中

尾鷲節の練習風景や準備の様子が紹介されています。

ピラリストル優等賞

ピラリストルコンテストで優等賞を受賞した部員の話が掲載されています。

写真コンテスト

写真コンテストの結果や作品の紹介が掲載されています。

**備えよう震災
高めよう防災意識**

震災対策に関する記事。地震の危険性や備えようとするべきもの、避難方法などが詳しく説明されています。

緊急地震速報

緊急地震速報の仕組みや受け取り方について説明されています。

自分の命は自分で守る

防災意識を高めるためのポイントや実践方法が紹介されています。

写真コンテスト

写真コンテストの結果や作品の紹介が掲載されています。

**男子も女子も
個性いきいき 部活動**

男子部員による活躍の様子や大会結果が紹介されています。

新生徒会選挙山積み

新生徒会選挙の準備や活動の様子が紹介されています。

写真コンテスト

写真コンテストの結果や作品の紹介が掲載されています。

音楽部

◇平成 28 年度第 83 回 NHK 全国学校音楽コンクール三重県コンクール（8 月 6 日）

○ 銀賞

◇平成 28 年度第 56 回三重県合唱コンクール（8 月 11 日）

○ 金賞 県代表

◇平成 28 年度第 69 回中部合唱コンクール（9 月 24 日）

○ 金賞

◇平成 28 年度第 28 回三重県合唱アンサンブルコンテスト（1 月 28 日）

○ A チーム 金賞 最優秀賞

○ B チーム 金賞 優秀賞

◇第 10 回声楽アンサンブルコンテスト全国大会（3 月 18 日）

○銀賞

◇第 40 回津高音楽部コーラスコンサート（3 月 28 日）

◇第 37 回みえ高文祭（10 月 23 日）出場

◇第 36 回近畿高等学校総合文化祭 兵庫大会（11 月 19 日）出場

「近畿高等学校総合文化祭兵庫大会に出場して」

2 年 芝 里万杜(朝陽中)

私たち三重県中勢ブロック合同合唱団（津高、津西高、津東高、神戸高、白子高、高田高、セントジョフ女子学園、桜丘高、青山高）は 8 月頃から練習を始めました。聞いていただく方に楽しんでいただけるようにと、ポップで明るい曲が中心の選曲となっていましたが、最初は音程を合わせるだけでも難しく、また楽譜上の「消えていくように」や「急に小さく」といった様々な指示の表現がうまくいかずに、なかなか形になりませんでした。その上、他校との合同練習の機会があまりないため、思うように声がそろわず、悶々とする日が続きました。

しかし、粘り強く練習を続けていく内に、次第に音程やみんなの声がそろい、澄んだハーモニーが響くということも増えてきました。ピッタリとハーモニーが決まり、曲の持つ表現の豊かさを感じ取れたときは感慨深いものがありました。この体験から私は、異質な声を持つ人たちが集中してお互いの声を聞きあい、声を合わせていこうと努力することによって一つの音楽になっていくという、合唱の素晴らしさを肌で実感することができました。

本番当日は、バスに乗り込んだときから少し緊張していました。あっという間に時間が過ぎて伊丹に到着し、リハーサルをするときには、「今までやってきたことをちゃんと本番でできるだろうか」と不安になってきました。

それでも本番になってステージに上がると、76人全員が集中している空気が感じられ、きっと大丈夫だ、と思い切って歌うことができました。結果としては非常にのびやかに歌うことができ、今までの練習の成果を発揮できたように思います。

また、中村健先生による「笑いのコーラス」のレクチャーや、他校のいろいろな演奏などを通じて、幅広い合唱の表現や知識、ジャンルを新しく知り、合唱の奥深さを感じることができました。

これらの経験を生かし、より感動的な、聞く人の心に届くような演奏を目指してこれからも日々練習していきたいと思っています。



陸上競技部

【三重県大会】

◇国民体育大会第一次選考競技会（4月16日～17日）

女子 400m 4位 3年 市川 緋那（三重大学附属中）
女子 1500m 6位 3年 九谷 葉月（名張北中）

◇三重県高等学校陸上競技春季大会（5月7日～8日）

女子 400m 3位 3年 市川 緋那（三重大学附属中）

女子 1500m 4位 3年 九谷 葉月（名張北中）

女子 3000m 5位 3年 九谷 葉月（名張北中）

女子 4×100m R 5位

2年 宮村桃子（多気中）、2年 北村帆乃香（三重大学附属中）

3年 市川 緋那（三重大学附属中）、3年 太田 千夏（白鳥中）

女子 4×400m R 6位

3年 松井万里子（三重大学附属中）、3年 市川 緋那（三重大学附属中）

3年 太田 千夏（白鳥中）、3年 九谷 葉月（名張北中）

◇三重県高等学校総合体育大会陸上競技の部（5月28日～30日）

…6位までの入賞者は東海総体出場

女子 3000m 5位 3年 九谷 葉月（名張北中）

女子 1500m 7位 3年 九谷 葉月（名張北中）

女子 4×100m R 8位

2年 宮村桃子（多気中）、2年 北村帆乃香（三重大学附属中）

3年 市川 緋那（三重大学附属中）、3年 太田 千夏（白鳥中）

女子 4×400m R 8位

3年 松井万里子（三重大学附属中）、3年 市川 緋那（三重大学附属中）

2年 宮村桃子（多気中）、3年 太田 千夏（白鳥中）

◇三重県高等学校新人陸上競技選手権大会（9月17日～18日）

…6位までの入賞者は東海高等学校新人陸上競技選手権大会出場

女子 400m H 4位 2年 宮村桃子（多気中）

女子 三段跳 4位 2年 北村帆乃香（三重大学附属中）



「殻を破る」(東海大会出場報告) 3年 九谷 葉月 (名張北中)

私は中学校時代、特に強い、ましてや県大会で入賞できるような選手ではありませんでした。同じ中学出身者には、私よりも足が速く、長距離の強い高校へ進学した人もいましたし、私なりに高校三年間陸上競技が続けられればいいかなという感じでした。

入学し、陸上競技部に入部した際には、県大会で入賞する先輩がいて憧れ持って練習に参加していました。私なりに先輩に追いつこうと頑張って練習に励んでいましたが、早い段階から顧問の先生には「殻を破れ」という言葉を掛けられました。2年生になってその声掛けはより多く言われるようになりましたが、私自身頑張っている自負もあり、なかなかピンときていなかったように思います。しかし、その言葉は中学の時入賞すらできなかった私に対し、絶対強くなる、入賞できる選手になるという顧問の先生への私に対する想いから出されるものだったのです。ですが、私は自分よりも実績のある先輩の後ろで走ることが多く、自ら練習を引っ張って取り組むことはせず、先生の言う殻を破ることはできないまま、3年生を迎えることになりました。

私は、1500mを得意とし、3000mと合わせて大会に出場していました。県インターハイ予選もこの2種目に出場しました。大会初日の1500m、記録は自己記録を大幅に更新して4分38秒03。順位7位。6位までが入賞で東海大会出場できます。たればを言ったらキリがないのですが、例年だとこの私の記録は入賞間違いなしの記録でした。涙しか出てきませんでした。「7位までが40秒を切っているなんて、こんなハイレベルな大会はない」そんな声が聞こえてきても、その中で東海大会出場を果たせなかった1名が私なのです。私は、最終日にあった3000mに出場し、今まで勝てなかった人にも勝って5位入賞を果たし、東海大会に出場することができました。1500mのこともあり、本当に、本当に嬉しかったです。

どの段階で殻を破れたのか、もしくはまだまだ破れきれていないのかもしれませんが、私が「入賞する選手になればいいな」という気持ちから、「入賞したい」「入賞する」と思いが変わっていったこと、自分が辛くも楽しくクラブ活動にチームメイトと取り組めたこと、強い選手になると信じてもらったこと、そして何より毎日私を支えてくれた家族、そういったいろいろな要素が私の硬かった殻を少しずつ、少しずつ破っていったのだと思います。

今、私は医師になるため、受験勉強に励んでいます。大学に進学してからも、膨大な知識を修得しなければなりません。ただ同時に、これからは走り続けられる限り走っていきたくと思っています。楽しいことばかりじゃない、けれども苦しいことばかりじゃない、陸上競技も人生もそんなものだと思います。その中では、私は自分の目に見えない殻を破り続け、成長していきたくと思っています。



卓球部

◇全国インターハイ三重県予選三重県高校総合体育大会卓球の部

シングルの部三重県大会（H28. 5. 4）

男子1名、女子3名 中勢地区予選通過県大会出場

女子シングルスベスト16 瀬古愛里（2年）

◇三重県高校選手権大会

男子ダブルスの部（H28. 8. 22）ベスト16 岸田・吉田（2年）組

女子ダブルスの部（H28. 8. 22）ベスト8 長崎・簗原（1年）組

シングルの部 男子4名、女子5名 中勢地区予選通過 県大会出場

女子シングルの部ベスト32 瀬古愛里（2年）堀内彩帆（2年）簗原清花（1年）

◇三重県新人卓球選手権大会学年別（H29. 1. 21）

シングルの部 男子4名、女子8名 中勢地区予選通過 県大会出場

シングルス女子2年の部 ベスト8 瀬古愛里

シングルス女子1年の部 ベスト32 長崎由衣

シングルス男子2年の部 ベスト32 岸田禎来

◇第67回中部日本卓球選手権大会（H28. 7. 16） 於岐阜県岐阜市岐阜メモリアルセンターS

ジュニア女子シングルの部県代表 瀬古愛里（2年）

女子シングルの部県代表 齊藤舞（3年）

女子ダブルスの部県代表 瀬古・竹内（2年）組、齊藤（3年）・村上（2年）組

◇第44回後藤杯卓球選手権大会（名古屋オープン）（H28. 9. 17） 於愛知県体育館

ジュニア女子シングルの部県代表 瀬古愛里（2年）

◇第54回東海卓球選手権大会（H28. 11. 4）出場 於三重県伊勢市サンアリーナ

ジュニア女子シングルの部県代表 瀬古愛里（2年）竹内 唯（2年）

簗原清花（1年）長崎由衣（1年）

女子ダブルスの部県代表 簗原・長崎（1年）組 村上（2年）中川（1年）組

男子ダブルスの部県代表 岸田・吉田（2年）組

「東海大会出場とこれから」（東海大会出場報告） 2年 竹内 唯（嬉野中）

私は、11月に開催された東海選手権大会に出場しました。東海四県それぞれから予選を通過してきた選手たちは、やはりレベルが高く、どの試合を見ているだけでも勉強になるものがありました。また、大きな大会であるせいか、いつもの大会よりピリピリした緊張感を感じました。私は、2回戦で静岡県の選手と対戦し、負けてしまいましたが、この大会は試合内容も含めて、とてもいい経験になりました。私だけではなく、この大会に出場した他のメンバーにとっても良い経験になったと思います。

日ごろの部活では、基本的に練習メニューは個々で考え、自由に練習しています。そして技術面などでわからないことがあれば、メンバー内で相談し合ったりと互いに切磋琢磨しています。また、先輩後輩の関係がないので意見の出しやすい良い雰囲気だと思います。

卓球部の良い雰囲気を保ち、大会での経験をいかして練習しながら、引退までの数か月間を部のメンバーとがんばって活動していきたいと思っています。

部活は技術が向上するだけでなく、他にも多くのことを学べます。部活で感じる達成感や仲間との一体感は、高校生活の中でかけがえのないものだと思います。

水泳部

■■主要大会成績■■

◇平成 28 年度三重県高等学校総合体育大会水泳競技大会（6月 25・26 日）

☆☆ 女子総合体 第 4 位 ☆☆

○ 個人成績

伊藤 悠貴（2 年生）200m 個人メドレー 3 位、400m 個人メドレー 2 位
飯田 奨之（1 学年）200m 個人メドレー 8 位
明比 千夏（2 学年）200m 自由形 8 位、100m 平泳ぎ 8 位
岡 鼓（2 学年）800m 自由形 7 位
山口 夏穂（2 学年）100m 背泳ぎ 8 位、200m 背泳ぎ 7 位
山下 幸恵（2 学年）200m 自由形 5 位、400m 自由形 5 位

○ リレー成績

男子 4×100m フリーリレー 7 位
男子 4×100m メドレーリレー 8 位
女子 4×100m フリーリレー 4 位
女子 4×100m メドレーリレー 4 位



（冬場の合同練習）

◇平成 28 年度東海高等学校総合体育大会水泳競技大会（7月 22・23・24 日）

○上記高校総体において入賞種目（個人 6 名 10 種目、リレー種目 4 種目）が出場

◇平成 28 年度三重県高等学校対抗水泳競技大会（8月 6 日、7 日）

☆☆ 女子総合 第 4 位 ☆☆

○ 個人成績

伊藤 悠貴（2 学年）200m 個人メドレー 5 位 400m 個人メドレー 3 位
飯田 奨之（1 学年）200m 背泳ぎ 5 位 200m 個人メドレー 7 位
明比 千夏（2 学年）200m 個人メドレー 5 位
岡 鼓（2 学年）400m 自由形 6 位 800m 自由形 5 位
山口 夏穂（2 学年）100m 背泳ぎ 6 位 200m 背泳ぎ 7 位
山下 幸恵（2 学年）200m 自由形 4 位 400m 自由形 3 位
藤本 晴香（1 学年）100m 平泳ぎ 8 位

○ リレー成績

男子 4×100m フリーリレー 6 位
男子 4×100m メドレーリレー 7 位
女子 4×50m フリーリレー 4 位
女子 4×100m メドレーリレー 4 位
女子 4×100m フリーリレー 4 位



（冬場の合同練習）

◇平成 28 年度三重県高等学校新人水泳競技大会 (9月18日)

☆☆ 女子総合 第5位 ☆☆

○ 個人成績

伊藤 悠貴 (2学年) 200m 個人メドレー 3位 200m 背泳ぎ 5位
竹内 健人 (2学年) 200m バタフライ 7位
飯田 奨之 (1学年) 200m 背泳ぎ 4位
岡 鼓 (2学年) 200m 自由形 8位
山口 夏穂 (2学年) 100m 背泳ぎ 5位 200m 背泳ぎ 6位
山下 幸恵 (2学年) 200m 自由形 5位 400m 自由形 4位

○ リレー成績

男子 4×50m フリーリレー 7位
男子 4×50m メドレーリレー 7位
男子 4×50m フリーリレー 7位
女子 4×50m フリーリレー 4位
女子 4×50m メドレーリレー 5位



(冬場の合同練習)

「この1年間を振り返って」

1年 藤本 晴香 (亀山中)

私は、津高校に入学して水泳部に入部しました。同学年の女子は、自分だけで不安もありました。しかし、先輩方がとても優しく学年の違いを感じさせない接し方をしてくださったので不安も消え練習に臨めることができました。その先輩方の活躍のおかげで初心者の自分もリレー種目で東海高校総合体育大会(岐阜県)に出場することができました。初めて見る他県の選手のレベルの高さに驚き、自分ももっともっと練習して速く泳げるようになるぞと思い、その後の練習にも力が入り、他高校チームとの合同練習では積極的に練習に取り組みました。また、合同練習では他高校チームから学ぶべき点(チームの雰囲気や無駄のない動き、礼儀作法など)もたくさんあり良い経験になりました。今後は、チームのみんながひとりでも多く決勝に進み東海高校総体の出場権を獲得できることを目標に、日々の練習を重ねていきたいです。

1年 清末雅人 (平田野中)

僕は、5歳から8年間スイミングスクールに通っていました。中学校時代は野球部に入部し部活動を楽しみました。高校に入学し部活を決めるに当たり野球部をはじめいろいろなクラブを見学しました。中でも水泳部が楽しそうに部活動をやっていたので入部を決めました。しかし、今まで興味程度にしかやっていた水泳なので大会や合同練習ではとても不安でしたが、先輩が優しく迎え入れてくれて楽しく練習ができました。これまでと違った雰囲気で練習に取り組めることができ、僕はとても気に入りました。練習は、2時間程度でしたが内容の濃いきついものでした。練習後の宿題や授業の予習は自分の容量を超えていましたが、1日1日慣れてきて今ではとても充実した毎日を過ごしています。水泳部はとても大変なクラブですが、何よりも競争心を奮い立たせる種目です。僕は、水泳部を選んで毎日が楽しく充実しているので良かったです。

バドミントン部（男子・女子）

平成 28 年度の結果

- 三重県高校バドミントン選手権大会（全国総体県予選）
 - 男子団体第 5 位（参加 42 校）
 - 女子団体ベスト 16（参加 40 校）
- 三重県高校バドミントン秋季大会（全国選抜大会県予選）
 - 男子団体第 3 位（参加 42 校）**東海選抜大会出場**
 - 女子団体ベスト 16（参加 41 校）
 - 男子 1 部ダブルスベスト 8（正木唯斗・小寺星瑠）
- 三重県高校バドミントン新人大会
 - 男子団体第 3 位（参加 67 チーム）

過去の主な結果

平成 22 年度

- 三重県高校バドミントン選手権大会（全国総体県予選）
 - 女子団体第 3 位**東海総体出場**
 - 女子 1 部複第 3 位
- 三重県高校バドミントン新人大会
 - 男子 1 部単第 3 位・男子 1 部複第 3 位
 - 女子 1 部単第 3 位
- 三重県高校バドミントン秋季大会（全国選抜大会県予選）
 - 男子団体第 3 位**東海選抜大会出場**
 - 女子団体第 3 位
 - 男子 1 部単第 3 位
 - 女子 1 部単第 3 位

平成 23 年度

- 三重県高校バドミントン選手権大会（全国総体県予選）
 - 女子団体第 2 位**東海総体出場**
- 三重県高校バドミントン新人大会
 - 男子 1 部単準優勝・男子 1 部複優勝
- 三重県高校バドミントン秋季大会（全国選抜大会県予選）
 - 男子団体第 3 位**東海選抜大会出場**
 - 女子団体第 3 位**東海選抜大会出場**
 - 男子 1 部単準優勝**東海選抜大会出場**・男子 1 部複準優勝**東海選抜大会出場**

平成 24 年度

三重県高校バドミントン選手権大会（全国総体県予選）

男子団体第 3 位

女子団体第 3 位 **東海総体出場**

男子 1 部単準優勝 **全国総体出場**・男子 1 部複第 3 位

女子 1 部複第 3 位

平成 25 年度

三重県高校バドミントン秋季大会（全国選抜大会県予選）

男子団体第 3 位

平成 26 年度

三重県高校バドミントン選手権大会（全国総体県予選）

男子団体第 3 位

三重県高校バドミントン秋季大会（全国選抜大会県予選）

男子団体第 3 位

私たちは男女で、ほぼ毎日活動しています。

男女で活動しているので、他の部活にはない楽しさがあります。人数が多く、一人一人の練習時間は短いけれど、みんなバドミントンが大好きなので一生懸命練習しています。先輩たちのほとんどが初心者です。優しい先輩がしっかりと教えてくれます。練習をすればするほど成果が出て楽しいスポーツです。

ぜひ、いっしょにバドミントンを楽しみましょう！

剣道部

- ◇H28 年度 三重県高校剣道春季大会 (4月24日)
 - 男子団体 5位
- ◇H28 年度 三重県高校総体剣道競技の部 (5月29日)
 - 女子団体 5位
- ◇H28 年度 三重県高校剣道一年生大会 (8月28日)
 - 女子個人Ⅱ部 3位
- ◇H28 年度 津市民大会剣道競技の部 (9月19日)
 - 高校の部 男子個人 優勝【2年 岩田学】
 - 高校の部 女子個人 3位
- ◇H28 年度 三重県高校剣道秋季大会 (11月3日)
 - 男子団体 5位
 - 男子個人 5位【2年 岩田学】
- ◇H28 年度 三重県高校剣道新人大会 (1月21・22日)
 - 男子団体 5位……東海選抜大会出場権獲得 (2年連続)
 - 男子個人 5位【2年 岩田学】
- ◇H28 年度 東海高等学校剣道選抜大会出場 (2月19日)



津高校剣道部は、【気をつなぐ・退(ひ)かない・技を出す】をモットーとし日々稽古しています。現在、部員は男子9名・女子4名の合計13名で、稽古時間は、平日の放課後18:00迄と土曜日午前が中心となります。

目標は県大会で上位に入り東海大会・全国大会に出場することで、文武両道を目指して部員一丸となり一生懸命頑張っています。1月末に行われた新人大会男子団体では第5位に入賞し、第3回東海選抜大会(岐阜県関市)の出場権を獲得しました。この東海選抜大会には2年連続の出場となりました。これは当日出場のメンバーはもちろん、部員全員の勝利であり、脈々と受け継がれる先輩方の伝統のおかげであると思っております。剣道で培われた精神力は、将来、必ず、色々な場面で役立ちます。一緒に剣道をしましょう！



吹奏楽部

1年生 9人 2年生 16人 3年生 20人

◇平成27年度三重県吹奏楽コンクール(8月6日) 金賞・県代表

◇第71回東海吹奏楽コンクール (8月28日) 銅賞

◇三重県アンサンブルコンテスト南地区大会 (1月8日)

打楽器四重奏 銀賞 / サックス三重奏 銀賞 / 金管八重奏 金賞・地区代表

◇三重県アンサンブルコンテスト (1月14日)

金管八重奏 銀賞

◇個人・重奏コンテスト 三重県大会

個人の部 フルート独奏 銀賞 箕形 友花 (桔梗が丘中)

◇第20回記念津高吹奏楽演奏会(3月26日)

「東海大会に出場して」

2年 部長 出馬 萌絵 (豊里中)

私達は昨年8月に行われた三重県吹奏楽コンクール、東海吹奏楽コンクールに出場しました。私達は日々、津高校のモットーである「自主自律」の精神に基づき練習に励んでいます。部活の方針、運営、練習内容の決定もすべて自分たちで行っています。また県下でも珍しい学生指揮による活動です。県大会では金賞・県代表をいただき東海大会に出場しました。東海大会に出場することができたのは、自分たちでどのような練習がどれだけ必要なのか、また私達の弱点はどこなのか、みんなで話し合い練習をしていたからだと思います。そんな私達の一年の集大成である定期演奏会が3月26日に三重県総合文化センター大ホールにて行われます。ぜひ来てください!!



弓道部

- ◇平成 27 年度三重県弓道連盟会長杯（2 月 7 日）
 - 女子個人 4 位 國分 由莉奈（三重大学附属中）
- ◇平成 28 年度三重県高校春季大会（4 月 29 日）
 - 男子個人 3 位 中森 薫（青山中）
- ◇平成 28 年度三重県高校総体大会兼東海総体・全国総体県予選大会（5 月 28 日）
 - 男子団体 3 位
- ◇平成 28 年度三重県高校総体大会兼東海総体・全国総体県予選決勝（5 月 29 日）
 - 男子団体 7 位

「春季大会 3 位に入賞して」

2 年 中森 薫（青山中）

私たち弓道部は男女ともに切磋琢磨し、平日毎日放課後練習しています。

弓道は他のスポーツと違い、精神力や集中力がとても大切なスポーツです。そのため普段から 1 本 1 本を大切にし、丁寧に弓を引くことを心がけています。そうした日々の練習の成果で、平成 28 年 4 月に行われた弓道春季大会で、個人 3 位に入賞することができました。この大会でも自分を見失わず練習のように 1 本 1 本を大切にし、丁寧に引くことができたのが結果に繋がったと思います。

これからも私たち弓道部は、顧問の先生方や私たちを応援して下さるすべての方々への感謝を忘れずに、少しでも高みへ行けるように努力して練習していきたいと思っています。

硬式野球部

- ◇第 68 回 秋季東海地区高等学校野球三重県大会（9 月 19 日～）
 - 1 回戦 津 7×-0 高田（7 回コールド）
 - 2 回戦 津 0-10× いなべ総合（5 回コールド）

- ◇第 98 回全国高等学校野球選手権三重大会（7 月 15 日～）
 - 1 回戦 津 9×-2 尾鷲（7 回コールド）
 - 2 回戦 津 3-4 海星

テニス部女子

○部員

2年生 10人、1年生 9人の合計 19人（顧問 3名）

○活動場所

東側コート（サムライパンチじゃない方）

○活動日時

平日：放課後（日が暮れるまで）

土日：どちらか半日（午前 8:30～12:30、午後 1:00～5:00）

土日祝に大会や練習試合が入ることもある

夏休みに 2泊 3日の合宿アリ

○目標

団体：県ベスト 8 復活

個人：1人でも多く本戦出場

○アピールポイント

先輩、後輩仲良く楽しく練習しています。

その中で、互いに切磋琢磨しながら日々励んでいます。

一つひとつの練習に意味を持たせ、それを全員が理解して取り組んでいます。

また、各自で目標を立て、達成に向けて努力を重ねています。

○最後に

練習すればするほど上手くなり、それを実感できるスポーツです。

初心者も経験者も大歓迎です。

ぜひ一緒にテニスを楽しみましょう！！ お待ちしています！！



みんな
仲良し！



目標と限られた時間を有効に使うことを大切に、充実した高校生活を送っています。

テニス部男子

「部活動の楽しさと難しさ」

2年 副田幸暉（明和中）

私は津高校テニス部に憧れ、この津高校へ入学しました。1年生の時に先輩方が団体戦で東海総体へ出場され、そこで見たもの感じたものを糧に、日々練習に打ち込んできました。その中で上手くいかないことがあると先輩方はアドバイスをしてくださったり、励ましていただいたりして、忙しい勉強との両立もサポートしていただきました。

そんな先輩方が引退した今、私はキャプテンをしています。なかなか上手くいかない事もあり、今まで以上に部の仲間の力を借りて、1つでも多く勝つため、個人での課題や部全体としての課題を全員で考えるなどして、先輩に追いつけるよう部全体で頑張っています。課題を見つけるというのは思っているより簡単なことではなく、自分の弱い所を自分で把握しなくてはなりません。部活動でやってきたことは、日々の生活でも必要な考える力や、物事を客観的に見る力などを成長させてくれたと思います。

テニスというものを通して、普段あまり経験できない他校との交流や、自らの技術の向上の体感など、様々な経験をさせていただきました。それにはテニスという競技だけではなく、先輩をはじめ部員・両親の協力があってこそそのものだと思っています。部活動はそういった人と人との関係を最も身近に感じられる場所であり、高校生活においてかけがえない場所だと思っています。人との関係を大切にしながら、自分なりに課題を見つけ、日々挑戦していきたいと思っています。

ソフトテニス部（男子・女子）

男子13名、女子12名で活動しているクラブです。初心者も頑張っています。自主・自律の精神の元、上位進出を狙って部員自ら練習メニューを考え熱心に活動しています。現在は、男子・団体 県ベスト8、個人ベスト16、女子・団体 県ベスト16、個人ベスト16を目指して、日々頑張っています。男女同じ会場で大会が行われることが多く、互いに応援し合いながら頑張っています。

サッカー部

◇平成 27 年度新人戦

1 回戦 津 0-1 津西

◇平成 28 年度インターハイ予選

【1 次トーナメント】

1 回戦 津 7-0 伊勢学園

2 回戦 津 2-5 三重

◇平成 28 年度三重県サッカーリーグ 2 部 A

第 1 節 津 3-0 三重 2nd

第 2 節 津 2-2 暁

第 3 節 津 5-2 稲生

第 4 節 津 0-3 鈴鹿

第 5 節 津 1-6 海星 2nd

第 6 節 津 6-0 亀山

第 7 節 津 2-2 神戸

第 8 節 津 1-0 宇治山田商業 2nd

第 9 節 津 3-1 白子

5 勝 2 敗 2 分、勝ち点 17 のグループ 3 位

◇平成 28 年度三重県サッカーリーグ 3 部 C

第 1 節 試合なし

第 2 節 津 0-6 志摩

第 3 節 津 2-5 青山

第 4 節 津 0-6 宇治山田

第 5 節 津 3-1 木本

第 6 節 津 0-13 海星 3rd

第 7 節 津 1-1 近大高専 2nd

第 8 節 津 1-6 久居農林

第 9 節 津 1-2 皇学館

第 10 節 津 1-4 津東

第 11 節 津 1-7 津田学園

1 勝 8 敗 1 分、勝ち点 4 のグループ 10 位

◇平成 28 年度選手権予選

1 回戦 津 3-0 桑名北

2 回戦 津 4-0 神戸

3 回戦 津 0-6 海星



ソフトボール部

◇平成 28 年度三重県高体連ソフトボール競技県総体（5 月 28 日）5 位

- ・部員数 …15 人(3 年 4 人、2 年 8 人、1 年 3 人)
- ・活動内容…平日 …練習（～18:30）
土曜日：午前練習 or 練習試合
日曜日：基本的には休み

こんにちは！私たちソフトボール部は夏の暑い中でも、冬の寒さの厳しい中でも、楽しく元気に活動しています。私たちのモットーは『部活動と勉強を両立させること』です。

部活動としての目標は、昨年に引き続きもう一度ベスト 8 に入賞することです。そして勉強での目標は、自分たちの第一志望としている大学に入学することです。

この 2 つを達成するために、部活動は短時間ですが集中して行っています。また、塾に通ったり模試などにも参加しやすい環境です。



熊野市山崎運動公園
くまのスタジアム



練習試合

ソフトボールは 1 チーム 9 人で行う競技です。しかし現在、1 年生が 3 名しかおらず、2 年生が引退してしまうと、人数不足でこのままでは単独チームで公式戦に出場することが出来ません。私たちの多くは中学生の時ソフトボールをしていなかった人もたくさんいるので、初心者の方でも大歓迎です！新入生で体を動かすことが好きな人はぜひ一度体験や、見学に来てください。

高校生活は…中学生の時とは違い通学に時間がかかったり、勉強が難しくなったりと大変なこともたくさんあります。しかし、そんな忙しい中でも部活動をするメリットはたくさんあると思います。体を動かすことなど自分の好きな活動をすることが気分転換になって、勉強がはかどったり、3 年間じっくり付き合える友達が出来たりするので、高校生活をより充実したものにする事ができると思います。

ぜひ一緒にソフトボールをしましょう！！

ダンス部

津高校ダンス部「つこだん」です！！私たちは、さまざまなイベントに向けて、毎日元気に活動しています！！部員のほとんどは初心者ですが、皆いろいろなジャンルのダンスに挑戦し、賞を取ることを目標にしています。また、他校生も加えて、“**FLOWER DANCERズ**”としても活動しています。男女関係なく皆仲良しです。みんなで頑張るその時間は私たちにとって宝物であり、青春そのものです！！初心者でも、経験者でも男子でも女子でも、どなたでも大々大歓迎です！私たちと一緒に最高の思い出を作りませんか？一緒に青春しましょう！！

これまでの主な受賞は以下の通りです。

◇三重県高体連ダンスフェスティバル

H. 20 最優秀賞 H. 23 発想が良かったで賞 H. 24 かわいかったで賞
H. 26 想定外な作品展開で魅せたで賞

◇嬉野おどろまいかコンテスト

H. 25 審査員特別賞 H. 28 審査員特別賞 H. 29 大賞

◇すずかフェスティバル

H. 28 企業賞



つこだん 年間スケジュール

- 7月 初舞台（大門）
- 8月 すずかフェスティバル
- 9月 文化祭
- 10月 安濃津よさこい
- 11月 からだから
- 12月 三重県高等学校
ダンスフェスティバル
- 2月 嬉野おどろまいか
コンテスト
- 3月 津駅前ストリート
まつり

ハンドボール部

◇部員数(平成 28 年度)

- 3 年生 …7 人
- 2 年生 …8 人 (うち女子マネージャー2 人)
- 1 年生 …13 人

◇限られた時間で何ができるか

平成 28 年度主将 小林 瑞季 (東観中学校)

ハンドボール部では時間の厳守を大切にしています。その一つの例として、放課後の活動を 18:00 までと決め、限られた時間の中で「今自分たちに必要なものはなにか」を自分たちで話し合い、効果的なメニューや計画を立て日々の練習に取り組んでいます。

現在の目標は県内の大会で上位入賞して東海大会に出場することです。部活動で培ったことを勉強でも生かし両立させてきた多くの先輩方にならない、「文武両道」を目指します。



◇ヨーロッパではサッカーに並ぶ人気スポーツ

ハンドボールはコートプレイヤーが 6 人、ゴールキーパーが 1 人の 1 チーム 7 人で、20 m×40m のコートで戦うチームスポーツです。ヨーロッパではプロリーグもある人気のスポーツで、その名の通り、ボールを手で扱い、相手ゴールに投げ入れて得点を競います。ハンドボールのおもしろさは、なんといってもスピード感あふれるプレーとダイナミックなシュート。「走る」「飛ぶ」「投げる」という運動の基本要素が求められ、相手のディフェンスをかわす軽妙な動きや、素早いパスワークも魅力です。サッカーやバスケットボールに比べて、相手の動きを止めたりするのに、かなりの身体接触が認められているので、時には激しくぶつかり合うこともあります。

部員の大半は高校からハンドボールを始めています。私たちと一緒にハンドボールをやりませんか！

◇活動状況と過去の成績

- ・平日 … 放課後練習、休祝日… 練習または練習試合・公式戦
- ・公式戦… 県総体 (インターハイ予選)、新人大会、選抜大会県予選会
- ・その他大会… 県総合選手権 (日沖杯)、津市民大会、三幸スポーツマックス杯 (中勢地区リーグ戦) など

・主な戦績

平成 18 年度

県総体ベスト 4 (過去最高)

平成 23 年度

県総体ベスト 8

第 6 回ヤマカップリーグ優勝
(15 勝 1 敗)

平成 25 年度

県新人大会 5 位

平成 28 年度

県総体 1 回戦

津 19-20 桑名工業



バレーボール部 男子

◆平成 28 年度三重県高等学校バレーボール春季大会（4 月）

| | | | | | |
|-------|---|---|---------------------|---|------|
| 2 回戦 | 津 | 2 | (25-13 25-20) | 0 | 四日市 |
| 3 回戦 | 津 | 2 | (25-15 25-17) | 0 | 松阪 |
| 準々決勝 | 津 | 0 | (13-25 13-25) | 2 | 海星 |
| 順位決定戦 | 津 | 2 | (25-16 25-14) | 0 | 暁 |
| 順位決定戦 | 津 | 1 | (25-20 13-25 18-25) | 2 | 四日市工 |

最終順位：6 位

◆平成 28 年度三重県高等学校総合体育大会バレーボール競技（5 月）

| | | | | | |
|-------|---|---|---------------|---|-----|
| 3 回戦 | 津 | 2 | (25-20 30-28) | 0 | 桑名北 |
| 準々決勝 | 津 | 0 | (19-25 11-25) | 2 | 津工 |
| 順位決定戦 | 津 | 2 | (25-17 25-15) | 0 | 津西 |

最終順位：5 位

◆平成 28 年度三重県高等学校バレーボール選手権大会（11 月）

| | | | | | |
|------|---|---|---------------|---|---------|
| 2 回戦 | 津 | 2 | (25-10 26-24) | 0 | いなべ総合学園 |
| 3 回戦 | 津 | 2 | (25-16 25-23) | 0 | 伊賀白鳳 |
| 準々決勝 | 津 | 0 | (11-25 14-25) | 2 | 皇學館 |

最終順位：5 位

バレーボールを通じて、技術面はもちろん人間としても向上するために、チーム一丸となって日々練習に励んでいます。練習や合宿などでは、辛く大変に思うこともありますが、チームみんなで乗り越えてきました。『「練習時間＋勉強時間」で三重県トップ』『県ベスト4』をチームの目標として頑張って活動しています。



バレーボール部 女子

短い時間で効率よく、内容の濃い練習を意識し、目標である【県ベスト 8】を達成できるように日々頑張っています。チーム全員が仲が良く、笑顔が絶えない部活です。勉強との両立は楽ではありませんがやりがいのある部活を目指しています。



バスケットボール部 男子

◇平成 27 年度新人大会：第 3 位 （東海大会出場）

◇平成 27 年度県総体：第 4 位

～主な行事～

春：兵庫合宿、大垣合宿、GW 合宿 in 天理

夏：高野山合宿、大垣合宿、

冬：クリスマス合宿 in 天理

「県ベスト 4 に向けて」 2 年 鈴木 崇弘 （三重大附属中）

私たち津高校男子バスケットボール部は 2 年生 9 人、1 年生 11 人、マネージャー 2 人の計 22 人で活動しています。昨年に比べ、個人の能力が落ちる分、リバウンドとチームワークを大事にしていくスタイルです。日々の練習は大変ですが、楽しく明るい仲間がたくさんいるので頑張ることができます。

昨年の成績は、新人大会 3 位、県総体 4 位と東海大会にも出場できましたが、ウィンターカップ県予選では 1 回戦負けというとても悔しい結果となってしまいました。

今は新人大会、県総体でベスト 4 を目指し日々練習に励んでいます。



バスケットボール部 女子

私たちは2年生7人と1年生1人、マネージャー1人の計9人で週5～6日活動していて、毎週火曜日が休みです。

基本的に男子バスケットボール部と練習しているので、少ない人数ですが、とても充実した練習ができています。

部員は学年を超えて仲が良く、チーム全員で「県大会出場」という目標に向かって日々努力しています。

初心者・経験者問わず大歓迎です！ マネージャーも募集しています！

興味のある方はぜひ体育館まで！



軟式野球部

○三重県高等学校総合体育大会軟式野球競技兼春季大会（4～5月）

2回戦 高田 7-3 津

○第61回全国高等学校軟式野球選手権大会兼夏季大会（7月）

2回戦 津 2-1 鈴鹿

A代表決定戦 高田 2-0 津

○平成28年度三重県高等学校軟式野球秋季大会（9月）

2回戦 津 6-5 伊勢

準決勝 桑名 4-0 津

3位決定戦 宇治山田 3-1 津

3位決定戦敗退のため、県第4位

私たち軟式野球部は、『東海大会出場』を目標に、部員18名、マネージャー1名の19名で日々練習に励んでいます。限られた時間の中で、効率よく、積極的に練習に取り組むことを部員全員が意識し、元気に楽しく野球をしています。

ラグビー部

「平成28年度第66回三重県高校総体」…第6位

「平成28年度第96回全国高校ラグビー三重県大会」…1回戦敗退

「平成28年度第69回三重県ラグビー新人大会 10人制の部」…2位

【 Where there is a will , there is a way. 】（意志あるところに、道は開ける）

津高ラグビー部の合言葉です。私たちはいつもチャレンジしています。そしてそれは、部活のみではなく、勉強においても、です。また、私たちは、全員が高校に入ってから始めた、いわゆる“初心者”です。それでも、短時間で、効率を求めた、集中力の要求される練習で、平成24年度・26年度には、東海大会にも出場しました。

しかし、私たちの一番の自慢は、90歳近くの大先輩をはじめとするOB会いわば「津高ラグビー部ファミリー」です。そして、そんな部活だからこそ『生涯の友人』を手に入れられることです。



校内芝生練習場

SSC

(スーパー・サイエンス・クラブ)

(1) 県外発表会

- ・ スーパーサイエンスハイスクール 東海地区フェスタ 2016 (名城大学天白キャンパス)
- ・ 平成 28 年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会 (神戸国際展示場)
- ・ 第 1 回東海地区 理科研究発表会 (東海学院大学)

(2) 県内発表会・イベント等

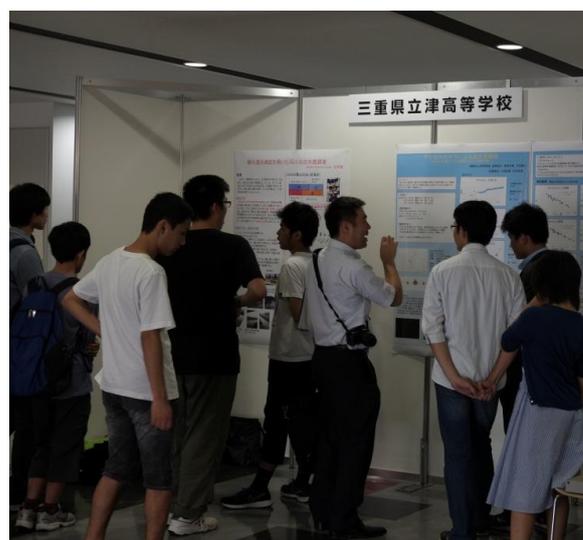
- ・ ふれあい科学教室 (三重県総合教育センター)
- ・ おもしろ科学教室 (津高校)
- ・ 青少年のための科学の祭典 (三重大学)
- ・ 国際科学技術コンテスト強化講座 (三重県総合博物館)
- ・ 第 1 回みえ自然科学フォーラム (三重県総合文化会館)

(3) 科学系オリンピック・コンクール等への出場

- ・ 物理チャレンジ 2016 (四日市高校)
- ・ 日本生物学オリンピック 2016 (三重大学)
- ・ 化学グランプリ 2016 (三重大学) 東海支部長賞 2 名、奨励賞 2 名
- ・ 第 9 全国数学選手権大会地域予選 (名古屋国際会議場)
- ・ 第 27 回日本数学コンクール (津高校)
- ・ 三重県科学オリンピック (鈴鹿医療科学大学) 3 位
- ・ 第 9 回日本地学オリンピック予選 (三重大学) 予選通過 1 名本選へ



グラウンドで流星観測



校外の研究発表会でのポスター発表

茶道部

津高校には表千家と裏千家の二つの茶道部があります。活動はどちらも週に一回で、表千家は水曜日、裏千家は火曜日にお稽古しています。文化祭は自分で浴衣を着て、普段のお稽古の成果を披露しています。和やかな雰囲気の中で季節のお菓子を楽しめる、魅力たっぷりの部です。興味のある方は一度和室をのぞいてみてください。

◇表千家茶道部は第36回近畿高等学校総合文化祭兵庫大会（11月12・13日）に参加し、奨励賞をいただきました。

「近畿高等学校総合文化祭兵庫大会に出場して」 1年 田中 楓華(赤目中)



私たち表千家茶道部は11月に行われた近畿高等学校総合文化祭兵庫大会に三重県代表として参加しました。交流茶会で他校の方々とお茶会をするのは初めてだったのでとても緊張しました。相手校の生徒さんのお点前は流れるようで私も見習いたいと思いました。また、相手校の半東さんは覚えた文言を言っているだけでなく、周りに気を配っていて素晴らしいと思いました。私が文化祭で半東の役をした時は最低限の挨拶をするだけで精一杯で

したが、周囲の状況に合わせて話しかけたり動いたりすることが大切だと思いました。私は正客をつとめ、とても緊張していましたが、相手校の半東さんが三重県のことや自分の学校の活動の様子など話しかけてくれて、とても新鮮でした。

今回この近文祭に参加し、普段のお稽古で何気なくしていることを一つ一つ意識してするようにすると自分の間違いや知らなかったことを発見できるということに気づき、今までの自分を振り返るととても良い機会になりました。これからは一つ一つのことに意識を集中して緊張感をもってお稽古していこうと思います。

軽音楽部

軽音楽部は、例年部員数が 60 名前後の大所帯のため、部員が一堂に会することはほとんどなく、基本的に各バンド単位で活動しています。校内での練習は 2 週間に 1 度、それ以外の日には個人練習をしています。最大のイベントは文化祭での発表です。非公開日には総合文化センター大ホールのステージでの 3 年生を中心とした発表、一般公開日には武道場でのライブを行っています。

この他に年 3 回、夏・冬・春に、アスト津のホール等でライブを行い、演奏を披露しています。近年は、津市民文化祭の軽音楽部門へ参加するバンドもあり、また昨年は Zip FM の取材を受けるなど、対外活動も活発になってきています。



将棋部

こんにちは、将棋部です。将棋部は、週 3 回（月水金）4 号館 1 階にある家庭経営室で活動しています。年 3 回全国や近畿大会の予選を兼ねた県大会があります。大会ではプロの先生から直接指導していただくこともできます。また、女子は県下の参加人数自体が少なく全国大会への門は広く開いています。他のクラブとの兼部もできますから、将棋に興味がある方は是非お越しください。

◇平成 28 年度 第 40 回全国高等学校総合文化祭将棋部門三重県予選（5 月 1 日）

- 男子団体 4 位
- 男子個人 5 位 山口 昂平（橋南中）

◇平成 28 年度 第 24 回三重県高等学校将棋大会（8 月 7 日）

- 男子個人 9 位 椿井 友也（亀山中部中）

◇平成 28 年度 第 21 回三重県高等学校将棋新人大会（10 月 22 日）

- 男子個人 8 位 椿井 友也（亀山中部中）
- 9 位 矢原 圭祐（附属中）

Jr. com部

| 平成28年度 活動人数 | 1年 | 2年 | 3年 |
|----------------|----|-----|----|
| | 7名 | 11名 | 7名 |
| 合計 25名 | | | |

漫画研究部「Jr. com」は40年以上の歴史があります。当時の漫画雑誌で、手塚治虫の「火の鳥」が掲載された「COM」から名付けられました。「手塚先生には及ばない。『Jr. (ジュニア)』をつけよう」と、1967年に当時1年生の6人が立ち上げたといわれています。

Jr. com部は月に3回ほど、家庭経営室で活動しています。主な活動内容は、月刊のイラスト冊子「Comらんど」を発行することです。部員全員が個々にテーマに添った作品を制作し、回収、印刷、製本へと作業を進めていきます。各部員は勉強の合間を縫って絵を描いています。

「Comらんど」のテーマは、季節ごとに決め、10月はハロウィーン、12月はクリスマスなど。1冊30ページのB5判で、毎回100部くらいを校内で配ったり、コミュニティの棚に並べたりしながら自由に読んでもらっています。

文化祭では、「Comらんど特別版」と称して、部員の腕の見せどころといった冊子が出来上がります。文化祭当日はこれらを特設会場に並べ、興味のある方の手にわたっていきます。文化祭準備では、手書きのイラストをラミネート状に加工したカードやポスター制作にも取り組みます。中でもカードは「くじ引き」の景品として活用し、毎年人気の催しとなっています。全てのカードが短時間でなくなりますので、興味のある方は早めにお越しください。

他の部との兼部も可能です。イラストを描いたり見たりすることの好きな方は、ぜひ活動を見に来てください。



月刊誌「Comらんど」



文化祭準備「カード作り」



文化祭「くじ引き」



文化祭「ポスター」

美術部

津高校美術部は普段は、平日に自由に作品制作に取り組んでいます。

年中行事として、夏には2泊3日の合宿で、海や山を感じながら風景画制作等の作品展を見据えた活動をします。

また11月頃には津新町商店街で行われる新町フェスタに呼んでいただき、イラストバスというコーナーでバス後方にイラストを描きます。

主な活動目標としては10月と3月の県内高校美術部の展覧会、そして1月の読書感想画コンクールがあります。後者では毎年賞をとるなど良い成績をあげています。



夏の合宿での風景画制作

文化祭作品展示



新町フェスタイラストバス



ジャグリング部

ジャグリング部は週3日楽しく活動しています。皆さんはジャグリングとはどのようなものか知っていますか？ジャグリングとはボールやディアボロなどの様々な道具を操るパフォーマンスのことです。地域の祭りや子ども会などから出演依頼を受け、また、9月には文化祭で技を披露します。部員の全員が高校からジャグリングを始めた初心者なので、経験がなくても心配いりません。気軽に来てください！

H28年度活動実績 6月 四日市ハーモニーフェスタ（四日市ドーム）

8月 新町小学校夏祭り（津新町）

憩いの里津ケアホーム夏祭り（江戸橋）

9月 文化祭

11月 桐ヶ丘フェスタ（伊賀市）

新町フェスタ（津新町）

（2016年度文化祭）



邦楽部

初めまして、邦楽部です。邦楽部では2年生6人、1年生2人が週3回、和気藹々とお箏の練習に取り組んでいます。普段は部員主体で練習していますが、週に一度、本校のOGでもある外部講師の方に指導していただいています。主な演奏の場は、9月の文化祭、3月の市民文化祭です。またボランティアの一環として秋には近辺の介護施設での演奏会も行っており、本年も職員の方をはじめ皆さんに大変喜んでいただき大盛況でした。演奏を通して、日本古来の和楽器ならではの、美しく心癒される箏の音色の魅力をお伝えすることが私たちの目標です。みなさんも箏の音色を楽しんでみませんか？



文芸部

毎週火～木曜日に生徒指導室前で部誌を作成、発行しています。主な部誌は小曲集5月号・青桐（文化祭のとき）・卒業生感謝号・新入生歓迎号の4つです。部誌の発行以外に、詩を作って互いに評価し合うこともあります。文芸の大会（高校文芸みえ）にも出場しています。

ホームライフ部

| | | | |
|----------------|-----------|-----------|-----------|
| 平成28年度 活動人数 | 1年 13名 | 2年 14名 | 3年 10名 |
| | 合計 37名 | | |



ホームライフ部はお菓子作りをメインとした部で、月に2回、調理室で活動しています。作る内容は主に2年生部員が決め、季節のお菓子を中心に、チャレンジしたいものを自由に選んで取り組みます。

活動は常に楽しい雰囲気にもまれていきます。先輩と後輩が自然な形でなじみあって、いつの間にかお菓子作りのコツなども引き継がれていきます。



文化祭では、毎年「お菓子の家」と称して模擬店を出しています。当日準備は早朝から全員が集合し、赤いエプロンを身に付けて作業が始まります。販売するお菓子は数量限定の「蒸しケーキ」。シンプルなケーキではありますが、みんなの心のこもった手作りケーキです。販売時間は10時と11時の2回で、いずれも時間の15分前からお客さんが集まり始めます。30分で完売することもありますので、関心のある方は早めにおいでください。

手作りにこだわりたい方、手作りを楽しみたい方はぜひ一度、放課後の調理室を見に来てください。先輩と一緒に会話を楽しみながら活動しましょう。



日頃の活動風景



文化祭当日の活動風景



クイズ研究同好会

- ◇ライオンズスペシャル第36回全国高等学校クイズ選手権中部地区大会（7月27日）
 - 三重県 優勝
- ◇ライオンズスペシャル第36回全国高等学校クイズ選手権全国大会出場（8月2日）

クイズ研究同好会は、夏の高校生クイズを目標に日々活動しています。今年度は三重県代表として本選出場を果たすことができました！今後の目標は本選の上位入賞です。文化祭では早押しクイズ大会を開催し、冬休みには先生方や生徒を対象としたクイズ大会を開催するなど、活発に活動しています。日頃は、みんなでわいわいとクイズを出し合い、クイズの腕を磨いています。部員は先輩後輩問わず仲が良く、気軽に勉強や進路の相談をすることもできます。また、クイズの中には学校で習う内容が含まれているものがあり、少しは勉強の役にも立ちます。クイ研は他の部との兼部も大丈夫です。クイズに興味がある人、高校に入って新しいことをしたい人は、ぜひクイ研へ！



国際交流同好会

Hello! We belong to the International Communication Club. Our activities are watching foreign movies in English, playing some English games, practicing speaking English and so on. We also have parties on Halloween and Christmas! You can enjoy speaking English with our ALTs, Aliena and Jessica. We're sure that you will be able to speak English better! The students who really like English are more than welcome to join us! We are looking forward to seeing you at Tsu High School!

演劇同好会

◇春季公演（4月13日）

- 「創と表」上演

◇津高入門講座（8月19日）

- 生徒ボランティアとして参加

◇津高校文化祭（9月9・11日）

- 「男女逆転?!シンデレラ」上演

◇津高図書館主催朗読劇（10月27日）

- 「朗読劇 しゃばけ」上演

◇冬季公演（12月15日）

- 「心底」上演

「冬季公演を行って」

1年 横山 祥子（豊里中）

私たちは12月に冬季公演を行いました。この公演で私は初めて脚本・演出と役者の仕事を掛け持ちしました。私は、今まで、役者か裏方、片方の役割しかやったことがなかった上に、この公演は今年入部したばかりの私たちが初めて自分たちで1から作り上げる舞台でした。他の部員に話の内容を考えてもらい、そのアイデアを元にして脚本を書きました。他の人の考えている事を脚本にするのはかなり苦労しましたが、なんとか書き上げる事ができました。演出の仕事はこの時初めてで、先輩にアドバイスをもらいつつ、役者の仕事と並行してやりました。この冬季公演で、私は、裏方の仕事の難しさ、それを今までこなしていた先輩のありがたみを改めて感じ、自分の勉強不足や力不足を思い知らされました。この経験を生かし、今、次の公演に向けて練習や、舞台演出についての勉強に励んでいます。次の公演ではさらに成長した姿を見せられるように頑張ります。



お姫様の婿を決める武闘会に1人だけ行けないことを悲しむシンデレラ
（「男女逆転?!シンデレラ」より）



疲れて武闘会に参加できないと嘆くシンデレラの疲れを癒そうと、老師がアレを取り出し叫ぶ！ 「サロンプラス！！」
（「男女逆転?!シンデレラ」より）

3. 個人活動紹介編



「2016年ジュニア・サミット in 三重」

4月22日から28日にかけて行われた「ジュニア・サミット」に本校生徒が日本代表として参加しました。

参加者

稲葉 陽樹 さん（橋北中）

日本代表4名のうちの1人。

俵 育実 さん（三重大学附属中）

三重県内4コースに分かれた視察・交流
行事でアテンドを担当。



「ジュニア・サミット in 三重」の日程

日時：平成28年4月22日～28日

場所：三重県桑名市を主会場とし、三重県各地、東京都での視察を実施

参加者：各国G7からの15～18才の青少年。各国男女2名ずつ、7カ国で28名
議論の概要

22日から24日にかけて、「次世代につなぐ地球 環境と持続可能な社会」をメインテーマに、集中して議論が行われました。参加者は、サブテーマごとに分科会形式で議論を行い、その結果を成果文書「桑名ジュニア・コミュニケ」にとりまとめました。桑名市での成果発表会には安倍昭恵総理夫人、鈴木英敬三重県知事、伊藤徳宇桑名市長が出席されました。また、稲葉君は、安倍内閣総理大臣への成果報告も行いました。

「ジュニア・サミットに参加して」

3年 稲葉 陽樹 （橋北中）

こんにちは、3年の稲葉陽樹です。今年の4月にジュニア・サミット in 三重に代表として参加した感想と教訓を書かせていただきます。

参加した感想を一言でいうと稚拙な表現ですが、「すごく楽しかった」です。と言っても、もちろん遊んでばかりだったわけではありません。3日間に及んだ議論はとても大変で、最終日に至っては午後11時までdraftというメンバーのアイデアを文に起こしてまとめたものの作成を行ったため、ホテルの部屋に帰ってから全く動けませんでした。そんななか最終的に提言書の形にまとめられたのは達成感があったしとても感慨深かったです。その間楽しかったことは、意見を交わすのもそうですが、議論の合間の休憩時間や湯あみの島の温泉に入っている時などに各国代表の子達とおしゃべりしたことです。それぞれの国の話をするのは新鮮



で面白かったです。それと、知っている方もいると思いますが、ジュニアサミットでは主な仕事である国際問題についてのディスカッション以外にも討議に関する視察や分散型体験・交流行事などの関連行事も多くありました。昼休みにはセントヨゼフ女子学園の生徒によるハンドベル演奏があったりもしました。そこでは県内の高校生の人達が付き添って説明をしてくれたり、地元の方があたたかく歓迎してくださったりして、ジュニアサミット参加者全員でとても充実していて楽しかったしい勉強になった、と話していました。私たちはジュニアサミットに協力してくれたすべての人達に感謝しています。私はこの機会を通し人に感謝する心も学んだように思います。

さてここまで行事の紹介と感想を話してきましたが、このジュニアサミットでの教訓が主に2つあります。まず1つ目は積極的に素早く行動することが大事だということです。活発な議論の場においては考える前にしゃべっていかないと、他の人が先に話し出して意見を言えなくなってしまう。私は最初カナダ、アメリカ、イギリスの代表たち(英語圏ですね)の会話に圧倒されてなかなか発言できませんでした。その上言おうと思ったことは全部言われてしまうのです。もう存在を忘れられないように必死でした。このことは国際会議の場以外でも言えると思います。積極性と行動力は重要だと改めて感じました。次に2つ目は「内容が肝心」ということです。いくら英語ができて話すものがなければ議論も会話もつまらなくなるということを実感しました。例えば会話だと質問攻めになってしまいます。これからは語学だけでなく中身も磨かなくてはと切実に感じました。

最後になりましたが今回の会議内容をまとめた提言書を読んでもらいたいと思っています。国際問題の解決にはすべての国の協力が必要で、すべての人の意識改革なども必要になってきます。だからぜひ読んでほしいです。(注:「桑名ジュニアコミュニケ」で検索してください。英語版と日本語の仮訳版が外務省のホームページにあります。)

私はこれからも鍛錬を積み精進していこうと思っています。ここまで読んでいただきありがとうございました。



「伊勢志摩サミット外国語案内ボランティアに参加して」

1年 足立 匠 (千代崎中)

僕は2016年5月26日、27日に開かれた伊勢志摩サミットの外国語案内ボランティアに参加させていただきました。

小学校4年生から中学校2年生までの約4年間をアメリカで過ごし、そのときに培った英語力を生かそうと思い、外国人の道案内などを英語など様々な言語とする外国語案内ボランティアに応募しました。1000人もの応募の中から選ばれ、参加者最年少という形で参加することができました。その後、通訳養成所の講師の方の講義を聴いたりするなど準備期間を経て、自分の担当の日となりました。その日はボランティア活動最終日ということもあってか思ったほど人が来ませんでした。なので、その分一人ひとり丁寧に案内することができました。

今回このボランティアに参加して、他人に物事を説明する楽しさを知りました。またこのような機会があったらぜひ参加したいと思っています。

「みえ高校生県議会」に参加して

3年 松林 里歩（西橋内中）

3年 福島 彩花（香海中）

1年 松林 由起（西橋内中）

私たち3人は、8月19日に「みえ高校生県議会」というイベントに参加しました。その内容と感想について述べたいと思います。

今年のみえ高校生県議会では、三重県の高校16校から、総勢50名ほどの高校生が集まり、各校が県政について4分間の質問を行いました。8月の本番に向けて私たちは、6月頃から質問内容やプレゼン方法について話し合いました。本番では、「三重県の将来を担う若者の育成について」と題して若者の教育について日頃感じる疑問を伝えたり、提案を述べたりしました。



私は、高校生議員としてだけでなく、議長としても参加しました。生徒会長を務め、様々なボランティア活動に参加する中で中高生とまちづくりの考えを繋げたいと感じたことから、今回のプレゼンを提案しました。議長としてスムーズに議論を進めつつ、自分の思っていることを議員の皆さんに伝えることができたので良かったです。（松林里歩）

私は、この行事を知ったとき、県議会なんてしょっちゅう行けるものじゃない！行ってみたい！と思い、参加しました。三重県じゅうの高校生が集まってきて、意見が被らないのか？と思いました。そんなことはなく、各校がそれぞれの視点から意見を述べていて、特色も出ていて、面白かったです。また、県議会議員の方々には私たち高校生が考えてほしいと思っていることを既に考えておられ、思いは同じなんだと思いました。私は将来、三重県のためになることをしたいと思っているのです、とても良い経験になりました。（福島彩花）

今回は初めて校外活動に参加したので、とても緊張しました。三重県の県政について、高校生の立場で感じることを、言葉で表現するのは大変難しかったです。普段の高校生活では体験できないことが、このイベントへの参加で経験することができました。（松林由起）

提案した内容や、イベントの概要は、県議会のHPで閲覧することができますので、ぜひ見てください。

「吉田沙保里大賞を受賞

スポーツクライミング 田嶋さん」 (津高校新聞より転載)

3年 田嶋 あいか (橋南中)

スポーツの国際大会などで優秀な成績を収めているジュニア選手とその指導者を対象とする「夢追人 吉田沙保里大賞」の受賞者が決定し、スポーツクライミングで活躍している田嶋あいかさんが平成 26 年度に続き 2 度目の受賞を果たした。

田嶋さんは「県内では数人しか受賞していない賞なので、とても光栄に思う」と笑みを見せた。

田嶋さんは、スポーツクライミングの中でもリードクライミングという競技の選手である。リードクライミングとは、クライマーとビレイヤー（ロープを地面で支える人）の 2 人 1 組で行われ、15m もの壁を登り、どこまで登ることができるのかを競うというもので、田嶋さんはクライマーの方だ。クライミングができる設備は三重県に少なく、4 年前に施設ができるまでは練習のためにわざわざ県外へ通っていたという。

田嶋さんは卒業してからもスポーツクライミングを続けて、大会などにも参加するつもりだという。「大学でも勉強と両立できるように頑張りたい。大会の成績はあまり気にしていないけれど、クライミングそのものに関しては、ただただ強くなりたい」と謙虚に語った。



今年度の主な成績

- ・ マムートカップ 2016 スポーツクライミング日本ユース選手権リード競技大会
女子ジュニア 準優勝
- ・ スポーツクライミング第 2 回日本ユース選手権ボルダリング競技大会
女子ジュニア 第 2 位
- ・ 第 19 回スポーツクライミング競技 JOC ジュニアオリンピックカップ大会
女子ジュニア 1 位 総合 1 位
- ・ 第 19 回 JOC ジュニアオリンピック大会 女子ジュニア 優勝
- ・ 国民体育大会第 37 回東海ブロック大会 少年女子山岳競技 1 位
- ・ 県内ジュニア選手を援助する平成 28 年度「チームみえスーパージュニア」の
1 名に選出
- ・ 吉田沙保里大賞 受賞

「津軽三味線にかける夢浮き橋」

2年 駒田 早代（朝陽中）

私は7歳の頃から津軽三味線を習い始め、今は地域のイベントや高齢者施設への慰問活動など、三重県を中心に演奏活動をしています。そして今、ちょうど10年の節目をむかえています。私はこの津軽三味線を通してたくさんの方々と出会い、様々な刺激をもらっています。

去年10月、毎年行われる津高校芸術鑑賞会で、今年は『日本の伝統芸能を観る』ということで、私の師匠や、この道のプロの方々と同じ舞台に立てる機会を頂きました。最初お話を頂いたときは夢のようでしたが、私と同年のみんなに津軽三味線や民謡、尺八、太鼓、手踊りなど、日本の伝統楽器の面白さ、カッコ良さを知ってもらいたいと思いました。今回、プロの方々とは舞台を創っていくという事で、私自身とても勉強になりました。

また私は10歳の頃から民謡も習っており、11月に行われた第31回全国尾鷲節コンクールにおいて、準優勝をさせて頂きました。この大会には去年も合わせて4年連続で出場しています。尾鷲節は三重県の民謡で、演奏活動をしていると、地元の方に尾鷲節が聞きたいとリクエストされることが多かったため、唄い始めました。三重県民として、この尾鷲節コンクールで優勝をして、いつも応援して下さいる方々に恩返ししたいです。

今回この生き生き津高の原稿を書くにあたり、演奏を聞いてもらった人に夢をかけたい、分かち合いたい、もってもらいたい、という思いを込めて『津軽三味線にかける夢浮き橋』をタイトルにつけました。

来年は受験を控え、ますます両立が厳しくなってくると思いますが、新しいことにも積極的に挑戦し、目標に向かって突き進んでいきたいと思っています。

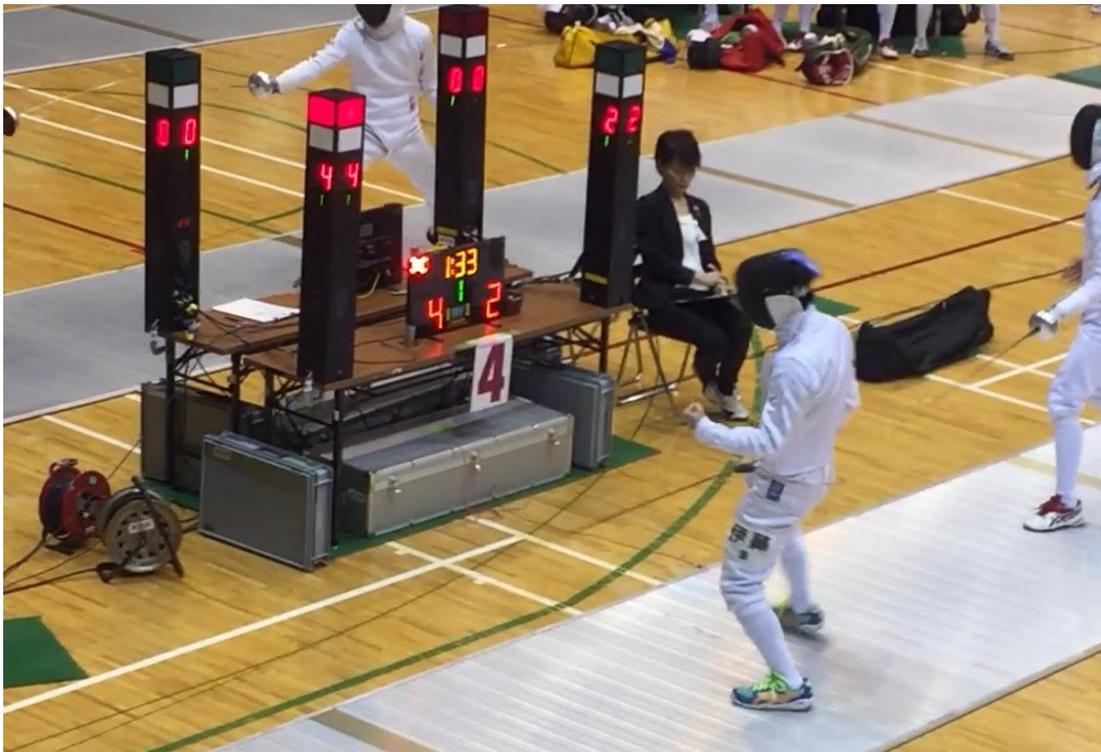


「ジュニア・オリンピックに出場して」

2年 伊藤 悠貴(三雲中)

私は今年の1月6日～9日に東京の駒沢オリンピック公園体育館で行われた、第24回JOCジュニア・オリンピック・カップフェンシング大会のエペという種目に出場しました。今回は昨年に引き続き2回目の出場でした。昨年はカデと呼ばれる14～16歳の年齢区分でしたが、今回はジュニアと呼ばれる17～19歳の年齢区分に出場しました。予選は6人プールでの総当たり戦で、昨年は緊張して普段の動きができなかったという反省を生かして、今回はリラックスして動くことができ、3勝2敗で予選を通過することができました。そしてトーナメントの1回戦、自分より年上の相手でしたが7-5で勝つことができました。続く2回戦では、自分の技が全く通用せず、4-10で敗退しました。全力を尽くしたのに勝つことができず、自分の実力はまだまだだったと痛感しました。

今年の夏には高校生として迎える最後のインターハイがあります。大会や練習の送迎をしてくれ、精神面でも支えてくれる両親や、指導をしていただくコーチ、「頑張れよ。」と応援してくれる友人や先生に対して、結果という形で恩返しができるように、全力で頑張りたいと思います。



予選プールにて ポイントを奪いガッツポーズ

「短歌作りはおもしろい」

2年 吉田 楓(南が丘中)

2016年度「新聞週間標語」代表標語に選出(全国1位)

「新聞を開くその手でひらく未来」

第44回佐々木信綱顕彰歌会 鈴鹿市教育長賞

「探してた本当の自分書き出して軽くとたんでポッケに仕舞う」

僕の作った標語が新聞標語の代表標語に選ばれたときは信じられないほど嬉しかったことを覚えています。賞品に胸が弾んだのはもちろんですが、何より自分の作った作品が全国の人に見てもらえることが一番嬉しかったです。新聞標語を作るときは、高校生の立場だからこそ作れるものを作ろうと思いました。自分の中ではかなり手応えはあったものの、まさか代表標語に選ばれるとは思いませんでした。

1年生の時に公募に応募し始めて以来、公募への応募が趣味の1つに加わりました。その中でも短歌作りが一番面白いです。自分が知っている言葉をひとつひとつ当てはめていって、それがぴったりと文章の中に収まった時が一番気持ちいいです。これが短歌を作る醍醐味だなと感じています。

また、短歌などを作っているうちに日常生活の中で様々な言葉に接していることに気付きました。普段テレビを見ている時に聞き流している何気ないCMのキャッチコピーがふと頭に浮かんだ時、言葉が人に与える印象は凄いなと実感します。

さらに、新聞標語に選ばれて以来新聞を開く頻度が増えました。それまでニュースはテレビやインターネットで見えていましたが、それらとはまた違った新聞の良さにも気付きました。僕も来年18歳になり選挙権を持つので、それまでしっかりと勉強して責任を持って一票を投じたいと思っています。

皆さんも興味があったら是非短歌作りにチャレンジしてみてください。僕は短歌を作ることは楽しいのはもちろんのこと、様々なことに興味を持つ良いきっかけにもなったと思います。これから先も続けて一生の趣味にしたいと思います。



「全日本珠算技能競技大会に出場して」

2年 杵川日向雅(三重大学附属中)

全国珠算学校連盟主催 全日本珠算技能競技大会 個人総合競技 優勝

日本珠算連盟主催 二十一代珠算名人位 決定戦 ベスト8

僕は今年の7月30日に東京で行われた、全日本珠算技能競技大会に出場してきました。珠算大会では主に、大きな桁のかけ算、割り算、足し引き算の速さと正確さを競います。また、僕はこの大会に小学生の時から出場を続けており、中学生以上の部では連覇を達成した経験もあります。この大会では、まずは選手全員が900点満点の予選を行うところから始まります。かけざんは4桁×3桁から6桁×6桁まで、わりざんは7桁÷3桁から12桁÷6桁までという、大きな桁の問題が出題されます。しかし、決勝戦に進むためには1問も誤答は許されず、900点満点を取得することが最低条件。決勝ではこれらの計算をいかに**暗算で素早く**解けるかが勝負のカギになります。今年の満点取得者は計5人でした。その中で決勝戦を行った結果、日本一を勝ち取ることができました。この他にも、まだまだ多くの珠算大会が年に開催されています。それら一つの大会で少しでも上位に入っていけるように、まだまだ上を目指して頑張ります。



「健康に関する作文」コンテスト

11月に行われた第42回「健康に関する作文」コンテスト（三重県学校保健会主催）において、下記のみなさんが受賞しました。

最優秀賞 1年 矢原 渚彩さん（霊峰中）

優秀賞 2年 西小野 光咲さん（三重大学附属中）

佳作 2年 二峰 慶太さん（名張中）

佳作 1年 田邊 拓巳さん（一志中）

「食べることの重要性」

最優秀賞

1年 矢原 渚彩（霊峰中）

普段は私たちが何気なく行っている食事。私はこの作文を書くに至って「食事と健康」について考えることにした。そこで、厚生労働省が行っている「国民健康・栄養調査」の調査結果から、特に気になった三つの項目を選びすぐだったので紹介したいと思う。

一つ目は、「脂質の摂取量」である。2014年（平成26年）時の調査結果によると、1955年（昭和30年）時では約175キロカロリーであるのに対して、2012年（平成24年）時は約490キロカロリーと倍以上に増加している。しかし、脂質の量は増えているにも関わらず一人一日あたりのエネルギー摂取量は減少傾向にある。また、脂質の中でも特に動物性脂質—牛や豚など動物の体内に主に含まれている脂質—の割合も増加傾向にある。1955年時は約6.5グラムであったのに、2012年時は約28.0グラムとなんと4倍以上も増加しているのである。これらの原因はいわゆる「食生活の欧米化」によるものだ。1955年の食生活はというと、戦後まだ間もないということもあり白米や魚や野菜、味噌汁といった古き良き日本の和食が最も一般的だった。しかし、経済成長や産業発展に伴って外国との流通が盛んとなり、日本の食生活は一変した。油成分が多い比較的安価な外国産の肉は、あっという間に一般家庭にも広まった。これらが、脂質の摂取量増加の最も大きな原因だと考えられる。

二つ目は「朝食欠食率の増加」である。2014年（平成26年）時の調査結果によると1985年（昭和60年）時では、男性は8.7パーセントの人が、女性は5.9パーセントの人が朝食を抜いていた。しかし2012年（平成26年）時は、男性は12.8パーセント、女性は9.0パーセントと両性とも増加している。また、

おなじく厚生労働省が行った「朝食を食べない理由」として“時間がない”“食欲がわからない”“朝食を食べるより寝ていたい”と答えた人が、他の項目よりも圧倒的に票が多かった。このことの背景には、夜型活性化による夜更かしや夜食の影響が考えられる。朝食の重要性は重視されつつある。科学的な面からみると、私たちの『脳』はブドウ糖—グルコース—のみをエネルギーとしている。私たちが睡眠している間も脳は常に働いており、夕食の分のブドウ糖はこの時に使われる。よって起床時は脳内にほとんど栄養が残っていない。それを補うために朝食は重要なのである。朝食を摂ることで血糖値(血液中のブドウ糖濃度)が上昇し、脳にエネルギーが供給される。逆に朝食を抜くと低血糖状態となって脳の働きが低下し、思考力や集中力がなくなったり、精神的に不安定になったりとデメリットばかりである。文部科学省が2009年(平成21年)に行った「全国学力・学習状況調査」によると数学Aの正答率は朝食を「食べている」人は65.8パーセントで、「食べていない」人は46.8パーセントという結果となった。また、朝食を抜くと逆に太ってしまう可能性がある。前日の夕食から昼食まで16~17時間もの間栄養が入らなくなると、体のエネルギーが枯渇し飢餓状態であると判断し、次の食事のエネルギーを脂肪として蓄えようとするからだ。朝食は、体温を上昇させて脳にも血液を行き渡らせるなど、体を目覚めさせる大切な役目もある。一食でも欠食させてしまうと、二食で栄養を満たさなければならなくなり、たとえスナック菓子などで空腹を満たすことはできても、結果的には栄養の偏りや不足が出ることになってしまう。

このように、否定的な面もある中で次のような項目もある。内閣府が行った「食育に対する意識調査」の「夕食を家族と一緒に食べる回数」では2010年(平成22年)以前は“ほとんど毎日”と答えた人が五割程度だったのに対して、2011年(平成23年)の時は七割程にも飛躍した。これは東日本大震災を経て、食事に対する意識が変化したとも考えられ、その後も以前に比べると高い水準である。

以上三項目からわかるように、食事—特に朝食は私たちの生活に欠かせないものである。だからこそ、健康には特に気を配る必要があり、バランスよく栄養を摂取するべきである。ダイエットも時には必要となるが、決してやりすぎは良くない。また、朝食の欠食をしないようにする工夫の一例として少し早起きをすることや冷たいジュース等を飲んで胃を刺激して、少しでも早く活動を開始させることがある。そのほかに単品でも栄養価の充実した食品—ゆで卵・チーズ等を食べるという方法もある。健康的な食生活には栄養の摂取だけではなく食材の選択、調理方法など様々な要因がかかわってくる。そのため、「食」という幅広い観点から食生活を見直してみることも必要である。

第62回青少年読書感想文全国コンクール

三重県審査 自由部門 最優秀賞

「良い子」の定義

(対象図書：三島由紀夫著『不道德教育講座』KADOKAWA)

1年 加藤 更紗 (三重大学附属中)

「良い子」って、都合の良い言葉だ。私は幼い頃から、この言葉を聞いて育ってきた。親から「良い子、良い子」と頭をなでられ、それを聞いて満足していた。だから私は、親が求める「良い子」になろうと必死だった。良い子になれば認めてくれる、褒めてもらえる。ただそれだけを信じて。「良い子」にも色々種類がある。「心が優しい良い子」「気がきく良い子」「都合の良い子」「外ヅラの良い子」…。私は後の二つのような「良い子」を選んでいった。親や周囲の大人達の都合の良いように、外ヅラばかり気にして、「良い子」を演じていた。親の頼み事はなんでも聞いた。いつも笑顔で、愛想良く接した。最初は私の態度を親も褒めてくれた。「ありがとう」と言って、頭をなでてくれた。ただ、人というものは慣れる生き物で。この前まで「ありがとう」と言われていたことが、すぐに「当たり前」になる。だんだんと、私は親に褒められることが少なくなっていた。それに焦りを感じていた私は、それまで以上に親に気を遣った。だが、そこから私が底辺に墮ちるのは早かった。焦りのせいなのか、やることなすこと全てが裏目に出た。親の機嫌を良くするどころか、かえって悪くしていた。ついに私が親から褒められることはほとんどなくなっていた。逆に叱られることのほうが、多くなっていた。

私が「良い子」を求めて得たものは、「出来損ない」「役立たず」「悪い子」というレッテルだった。私が「良い子」であった意味は結局なんだったのだろうか。ただ他人のご機嫌をとるためにへりくだっていた姿が、本当に「良い子」だったのだろうか。「悪い子」のレッテルが貼られてから、私の頭にはこんな思いがぐるぐると巡っていた。そんな時、この本に出会った。本のタイトルは『不道德教育講座』。タイトルからしてすごい本だが、肝心の内容はもっとすごかった。まず、目次をみると、「教師を内心バカにすべし」とか、「友人を裏切るべし」とか、今まで私が死んでもしないようにしようとしていたことを、どんどん勧めてきた。それでも私が嫌な気分にならなかったのは、心の片隅にそのようなことをしたいという願望があったからかもしれない。内容を読み進めていくと、全ての話が酷かった。全てを自分中心で考え、「自分が良ければ全て良し」と言いたげなまとめ方だった。しかし、ここまで読んで、私はあることに気がついた。「自分が良ければ全て良し」ならば、人に尽くす「良い子」とは、何なのだろう。更に読み進めると、こんな言葉があった。「人は誰でも、内心自分が一等正しいと信じているのですから」。ここで、私はある一つの真実に気がついた。「良い子」とは、自分が信じている人物像であり、人の言うことを何でも聞く人や人の顔色を見る人ではない。私が幼い頃求めていたものは「良い子」などではなく、単なるあやつり人形に過ぎなかったのだ。

このことに気付いてから、私はあやつり人形であることをやめた。他人の意見などではなく、自分の意見を信じて行動した。それが、私にとっての「良い子」の人物像だったから。だから、必要だと思ったら友達に嘘をついたり約束を破ったりしたし、自分が従いた

くないと思えば親に反発した。最初は嫌われやしないかとビクビクしていたが、案外そんなことはなかった。むしろ、前よりも好かれていたような気がする。

私は、私なりの「良い子」というものをやっとなににすることができた気になった。周囲の人々にとってではなく、まぎれもない私だけのもの。周囲の人々の都合や機嫌よりも大切に思えるものを見つけた。友達を心の底から大切に作る喜びがよく分かった。だから、私は自分を信じる「良い子」になろうと決心したのだ。少し前に聞いた言葉を思い出す。誰が言っていたのかは覚えていないが、「百人に『あなたは間違っている。』と言われても、その人達が全員間違ってるかもしれないじゃないですか。」という言葉だ。たとえ他人に何を言われても、自分が信じることを突き進めていけば良い。そんなことを表している言葉。私が「良い子」であるための背中を押してくれた。私の「良い子」が気に食わないと思う人もいるかもしれない。だけど、そんなことは気にしない。私は自分のことを「良い子」と信じているのだから。私にとっての「良い子」が、誰かにとっての良い子でもあったなら拍手喝采、万々歳。そうでなくても、私がずっと信じていられるのなら、それで良い。これから先、私のことをとことん否定してくる人に出会うかもしれない。嫌ってくる人もいるかもしれない。そんな人たちにも、その人なりの「良い子」はあるのだ。だから私は気にしない。誰が何と言おうと、私が「良い子」であることに、間違いなんてないのだから。

三重県審査 優秀賞

「幸福な死」について

(対象図書：重松清著『卒業』新潮社)

1年 高橋 くるみ (三重大学附属中)

もうすぐ死ぬと「わかっていた死」を経験したことはあるだろうか。主人公の父は、余命を宣告され、自宅で最期を迎えるという形を選んだ。主人公は、残りの人生で何かしてあげたいことを探す、なかなか見つからない。ガンに冒され、死を直前に控えた父は元高校教師。厳しさをモットーとしすぎた為に、教え子は誰もお見舞いに来ない。教師として職務を全うし、その仕事に誇りを持っている父が最期に教えられることは、命の大切さだった。

私が経験したことのある身近な「死」は、近所のおばあさんの死だった。そのおばあさんとは、私が小さい頃よく遊んでもらったり、夫であるおじいさんの仏壇に手を合わさせていただいたり、とにかくたくさんお世話になった。しかし、私が小学校へ入学すると同時に、おばあさんと会う機会が激減し、疎遠になってしまった。中学校二年生になった秋の初め、おばあさんが亡くなったと母から聞いた。その「突然の死」に私は驚くことしかできなかった。辛さや悲しみは、お通夜に参加して初めて感じた。全て終わってから、私は後悔した。ありがたいの一言も言えず、亡くなる前にお見舞いにも行けず、おばあさんが亡くなったとき私は何をしていたら、と自分を自分で責めた。「死ぬこと」がわかっていたら…とどれほど思っただろうか。

「わかっていた死」は、誰もが経験する「死」の中でも幸せな「死」だと思う。やり残したことは清算できるし、残りの余生を楽しむことができる。人生において避けられない「死」を、どのように迎えさせてあげられるかを考え、実行することができる。今回のこの物語がそうだ。主人公は父の病状を自分の生徒たちに見せてやる。確かに教育者としては間違っているかもしれないという気持ちを持ちながらも、最期まで父は立派な教師だったと、父の人生を正当化する。最期の親孝行と言ったら良いのだろうか。誰からも感謝されず、生徒から慕われることもなく、卒業後にあの時はありがとうございましたと述べる者も現れずに、今最期を迎えようとしている父は、教師として最高だったと最後まで言いたかったのだろうかと思う。

人間誰しも人に好かれたい。嫌われようと思って生きている人なんていない。だから誰かに何かを気付かせたいとき、伝えたいときに、わざと嫌われ役を買って出るのはすごいと思う。私は高校の男子バスケットボール部のマネージャーをしているのだが、あまり部員に注意できない。注意すると嫌われてしまうのではないかと不安が頭をよぎるからだ。しかし、それだと部員のためにならないとも思っている。この物語の中で父が言っている、「ガキのうちはいいんだ、どんなに恨まれても。あいつらがおとなになってからお父さんの教えたことをわかってくれれば、それでいいんだよ。」

という言葉に、胸を打たれた。優しく、丁寧に言葉で説明するよりも、冷たい態度や厳しい言動で相手に衝撃を与えて考えさせ、正解へと導く。こういうことは本当に勇気も覚悟も必要だし、その人のことを想っていないとできないことだと思う。揺るぎなく、ただ相手を信じ、全うする。そして、その見返りは初めから求めるものではない。これは、主人公の父の考え方である。私もその勇気や覚悟を身につけ、嫌われ役にも回れるようになりたいと思った。

「死」ということは、考えれば考えるほど難しいものだ。「死ぬとはどういうことか」について、みんなが納得する答えというのではないと思う。なぜなら「死」そのものが客観だとしても、人が「死」を考えたその瞬間から、その「死」が主観になるからだ。つまり、人の数だけ「死」があるといえる。私達が生きていく上で避けることのできない「死」。答えが出なくても、納得できなくても、考えてみるのは重要なことだ。「死」は、たくさんのあたり前に感謝できる。私は好きなものは後回しにするタイプだ。しかし、それは未来があるから後回しにできるだけだ。「死」というものを身近に感じると、「後でできなくなるかもしれない」と心配になり、後回しにできなくなると思う。「死」を意識しすぎると、臆病になってしまうのかもしれない。

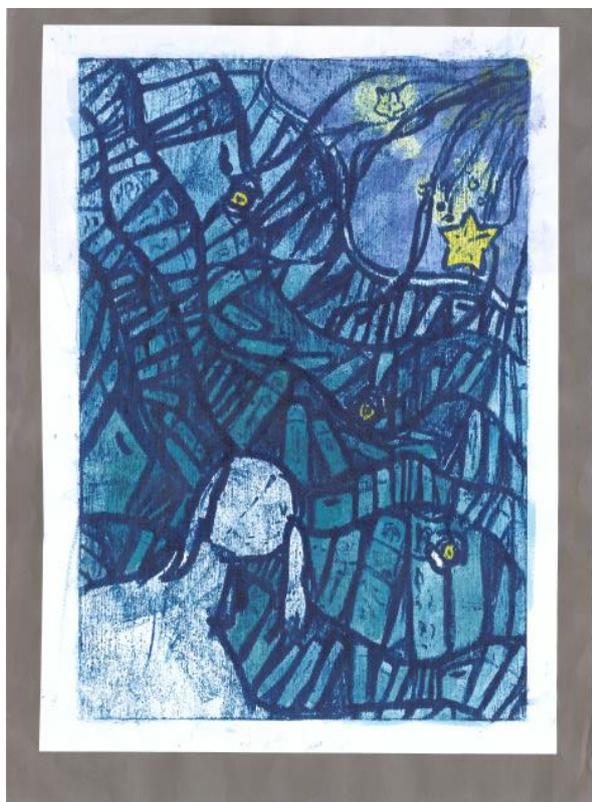
「生」と「死」は白か黒かの選択ではないと思う。死は生の中に、生は死の中にお互い生まれ含まれあっている。けがれた黒を含むことで白が際立って輝く。自然の中に、すでに不自然が含まれているのだ。間違いも含んでいるからこそ、正しいことを大事にしたくなるのだ。

『死』とどう向き合っていくのか

それは、人生の永遠のテーマだと思う。私は、「死」を恐れて臆病に暮らしていくのは嫌だ。だから「死」については一定の距離感を保ちたいし、上手に付き合っていきたい。

第 28 回読書感想画三重県コンクール

自由読書の部 最優秀賞 「図書室」 1年 脇本三沙希（東観中）



対象図書：宮部みゆき「英雄の書」

「この本は、『英雄』にとりつかれたクラスメイトを殺してしまい、そのままどこかへ消えてしまった兄を探す少女の冒険物語です。

主人公は本と共に冒険していくのですが、このシーンは、彼女の手元にあった1冊の本・アジュが冒険の助けとなる仲間の本の元へ彼女を導くシーンです。不思議な雰囲気を出すために全体を歪ませたり、本をぎっしり描いていくことが大変でした。天井の星空をイメージしたオーナメントが入っています。」

指定読書の部 優良賞 「始まりはそこから」

2年 國分由莉奈（三重大学附属中）



対象図書：根岸豊明

「誰も知らない東京スカイツリー」

『ある会議』からすべてが始まりました。大変なことも失敗も中にはあります。しかし、私たちのシンボルとなって生活に溶け込んだツリーを想像上だけでなく現実にしたその部屋は、どこかおとぎ話のようで心が躍りました。どんなことでも考えているだけじゃ何も起こらない。奇跡も手にできない。ツリーにかくれているたくさんの大人たちの汗、それをおとぎ話から感じとったままに手を動かし、表現してみました。」

「高校生ビブリオバトル」

12月11日（日）、「高校生ビブリオバトル三重決戦2016」が皇學館大学で行われ、地区大会で選ばれた1年 下地なつめさん（和內中）と1年 小野隆一くん（橋北中）の2人が参加しました。審査の結果、下地なつめさんが「優秀賞」を受賞しました。

ビブリオバトルとは、本の紹介コミュニケーションゲームです。「人を通して本を知る、本を通して人を知る」をキャッチコピーに、各地で開催され、高校生の全国大会も行われています。

発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まり、順番に一人5分間で本を紹介します。それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分行い、全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなかったか？」を基準とした投票を参加者全員で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』となります。

優秀賞

『霊長類ヒト科動物図鑑』

（向田邦子著 文藝春秋）

<口頭での発表を文章に起こしたものです。>

1年 下地 なつめ （輪内中）

私が今日みなさんに紹介するのは、『霊長類ヒト科動物図鑑』です。さっき「すごいですね。図鑑でエントリーするんですか。」と聞かれたんですけど、がっつりエッセイです。題名だけです。ごめんなさい。私は、この向田邦子という人が好きなんですけど、この人と出会ったのが、中学校の時の教科書で、『字のない葉書』って知っている人いらっしやるでしょうか。それにすごく惚れ込んで、のめり込んでしまって、家族で行った鹿児島の旅でも、「向田邦子文学館に行きたい。」と言って、嫌がる妹たちを説き伏せて行かせてもらって、近くにある図書館でも、『向田邦子朗読全集』というのがあるんですけど、それを制覇しようと心に決めて、片っ端から借りて、もうすぐで達成できそうです。暇人ですね。

そこまで私がこの人を好きな理由の一つが、すごく描写が鋭いところなんですよ。例えば、

「表で肉親と出会ってしまうことがある。こういうとき、どういうわけか、大変に慌てへどもどして居心地の悪いことになってしまう。手を挙げることはめったにない。大抵は気付いたことを相手に悟られないよう、なるべく知らん顔をする。擦れ違う直前になって、今気が付いた、というふうに、少し不愛想な声を掛ける。」

ありませんか、こういうこと。あっ、頷いてくださる。ありがとうございます。それで、ありそう、書けそうだと思うんですけど、案外書けないんですよ。自分が書こうとすると。ある、でも書けないという文を書くのが、この人のいいところなんです。魅力的なところなんです。この本の中で「泣き虫」という章が出てくるんです。後に紹介させていただく、向田邦子さんの名物お父さんが亡くなるシーンなんです



すけど、向田さんの悲しみ方が、すごく身に染みるんですよ。この人流に言うと、「かえしのある釣り針が身に刺さる感じがする」と。私は向田さんのエッセイをいっぱい読んでいますが、その中でこの本をわざわざ選んだのは、そこが理由なんです。ここで長々と説明はいたしませんので、みなさんで確かめてください。「こんな書き方をするんだなあ。」と楽しんでください。

もう一つの理由が、この人が自分の失敗を生き生きと面白く書いているところなんです。向田さんって小説家としても有名で、直木賞も受賞しているんですよ。当時、ドラマ脚本家としても有名で、しかもモダンな美人なんです。羨ましいかぎりでしょう？でも、この人はそんなこと全然鼻にかけずに、自分の失敗を生き生きと書いているんです。私、すごくそこが好きなんです。すごく好きなんです。すごく、すごく好きなんです。何故かという、私がとてもおっちょこちょいだからです。この前のビブリオバトルの予選でも、当日になって会場の場所が分からないということに気がついて、ミニミニに駆け込んだり、途中まで行っていた友達に「お願いだから帰ってきて。」と言って泣きついたり。やっと会場に着いたと思ったら、みなさん制服なんです。私の高校は私服なんですけど、私一人だけ真っ赤なユニオンジャックの服を着ていて、黒い制服の中でとても目立つわけなんです。すごく恥ずかしかったです。毎日がこんな感じなんですけど、でも向田さんの失敗談を読んで「あっ、私も頑張ろう。こんな私でも頑張ろう。」と思えるんです。向田さんの

「思い出はあまりに完璧なものより、多少間が抜けた人間臭い方がなつかしい。」

という台詞に私はすごく救われるわけなんです。まあ、おっちょこちょいの度合いは大分多いわけなんですけれども。みなさんも人間だから、失敗することがあるじゃないですか。そういうちょっと落ち込んだ時に読んで、くすっと笑って現実に戻っていただくといいかなあと思います。短い話ですから、そんなにだらだらお時間も取らせませんので。

そして最後の理由で、これが最大の理由なんですけど、お父さんが面白いんですよ。すごく、すごく最低なんです。明治時代のお父さんで、とても亭主関白で、奥さん 子どもに手は上げる。自分が悪いと思っても絶対に謝らない、すぐ怒鳴る。今なら DV で訴えられてもいいようなお父さん。私、この時ばかりは「ああ、自分のお父さんが自分のお父さんでよかったなあ。」と思いました。でも、このお父さんも向田邦子さんが書くと、すごく温かくていいお父さんになるんですよ。宴会で、トロとかヒラメとかを子どもたちに持って帰ってくれるような、そんないいお父さんなんです。そういうところもあるんです。結局、夏場だから食べさせない方がいいと言って、逆ギレして庭にぶちまけて、朝まで見せしめのために置いておくんですけど、刺身を。そんな魅力的な人がいっぱい出てきます。是非、読んでみてくださいね。



